

ウクライナ戦争と露石油・ガス産業の近未来 ¹

DF報告会（2023年11月10日）

=世界の石油・ガスの流れが変わる=

報告者: 杉浦敏廣 hs44es@bma.biglobe.ne.jp

- 報告要旨（結論）：**「プーチン後継はプーチン」**
- 第一部：ウクライナ戦争の影響
- 第二部：油価動静と世界の3大産油国
- 第三部：ロシア国家予算案概観
- 第四部：石油・ガスの流れが変わる

超安値ロシア産原油 → 中国(ESPO原油)・印度(ウラル原油)へ
中国・印度で精製された石油製品（主に軽油）→ 欧州へ
EU諸国向けロシア産PLガス輸出減少 → ガス輸出関税激減

本日の報告要旨

◆露経済は油価依存型経済構造：「油上の楼閣」

◆ウクライナ戦争の結果 ➡ 露経済の弱体化

信頼に足る石油・ガス供給源の地位崩壊 → 欧州ガス市場喪失

ロシアの継戦能力は？／プーチン影武者説は？

◆ウクライナ戦争の影響：

・世界の石油・ガスの流れが変わる → 露産PLガスは欧州市場喪失

・中央アジア諸国のロシア離れ表面化 → 特にカザフスタン
カザフ・トカエフ大統領はナザルバエル一家と決別宣言(23年1月13日)

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

●「プーチン後継はプーチン」(露大統領選挙24年3月17日)

今後の注目点 → 対露経済制裁措置強化の影響

●2024年ロシア国家予算原案は「戦争経済」へ

本日の報告会結論

3

◆ウクライナ戦争の結果 ➡ 信頼に足る石油・ガス供給源地位喪失

ロシアの弱体化が進む → 対中資源属国化促進

(参考: 今、モスクワで密かに流行っているアネクドート・露小噺)

ロシアは百年前、ラスプーチンに支配されていた

ロシアは今、プーチンに支配されている

ロシアは百年後、チン(朕)に支配されているだろう (朕=中国王朝の皇帝)

◆ウクライナ戦争の影響 ➡ ロシアは「戦争経済」に突入

● 欧米メジャーの撤退 → 露原油・ガス生産量減少へ

● 世界の石油・ガスの流れが変わる → 露産PLガスは欧州市場喪失

➡ 露ガスプロムの経営悪化 (bcm=10億立米)

(EU向け2021年140bcm → 2022年60bcm → 2023年20~25bcm)

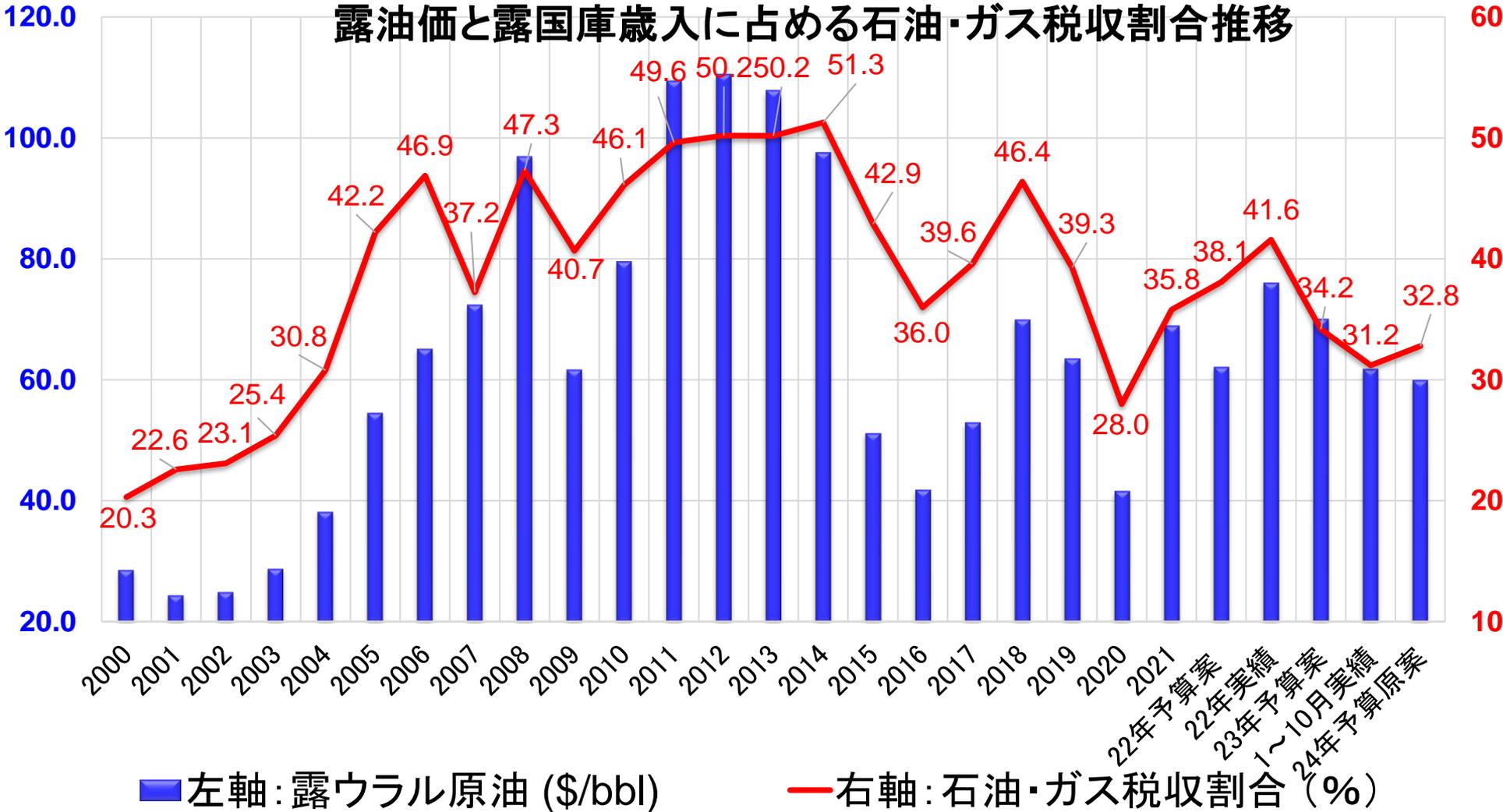
・カザフ・トカエフ大統領 ナザルバエルー一家と決別宣言(23年1月13日)

→ 露V.プーチン大統領は権力の座に居座る(2036年まで可能)

露経済：「油上の楼閣」

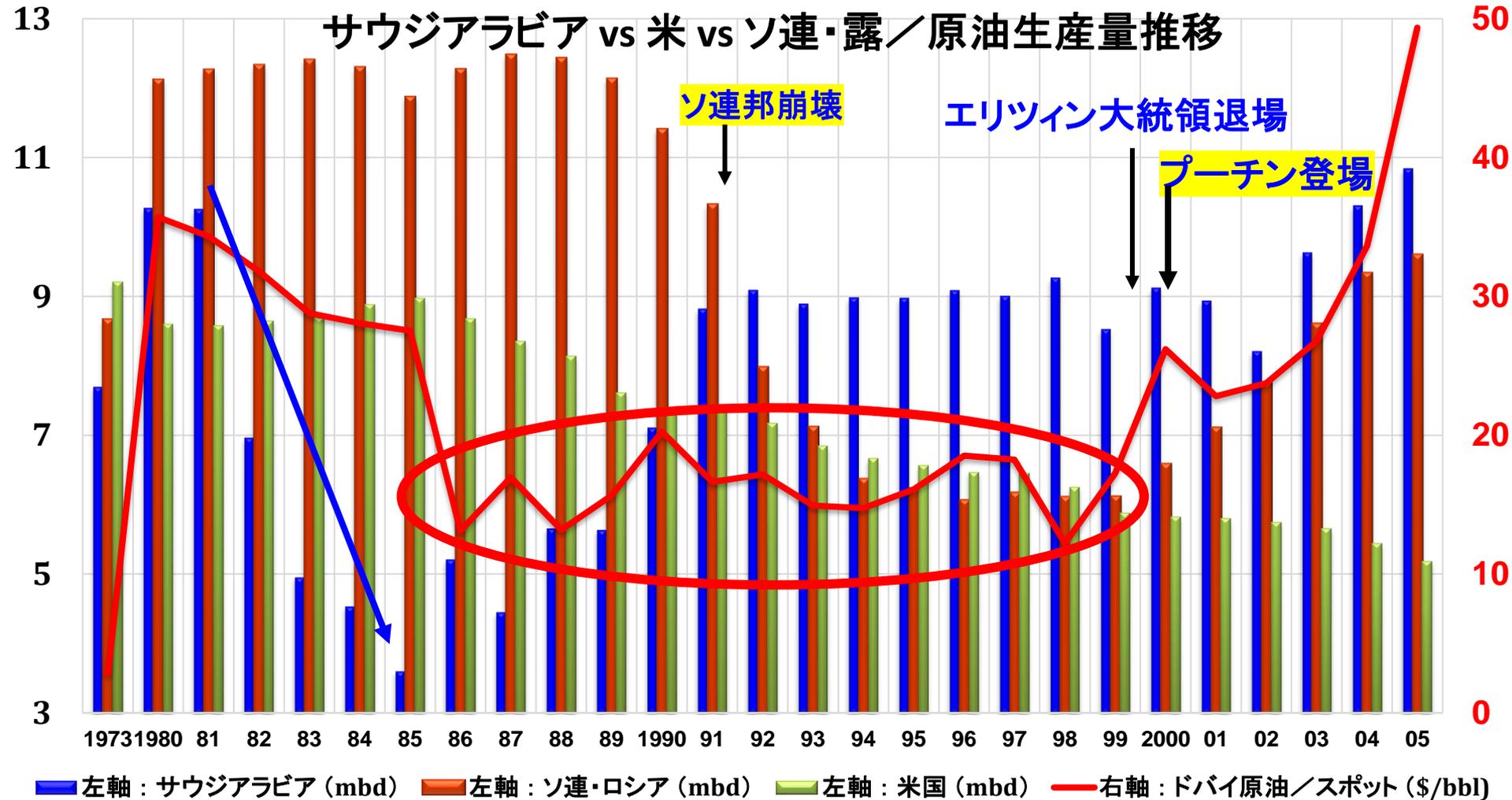
露国庫歳入は油価（ウラル原油）に依存している（出所：露財務省）

石油・ガス税収：地下資源採取税＋輸出関税＋（2019年以降）追加収入税



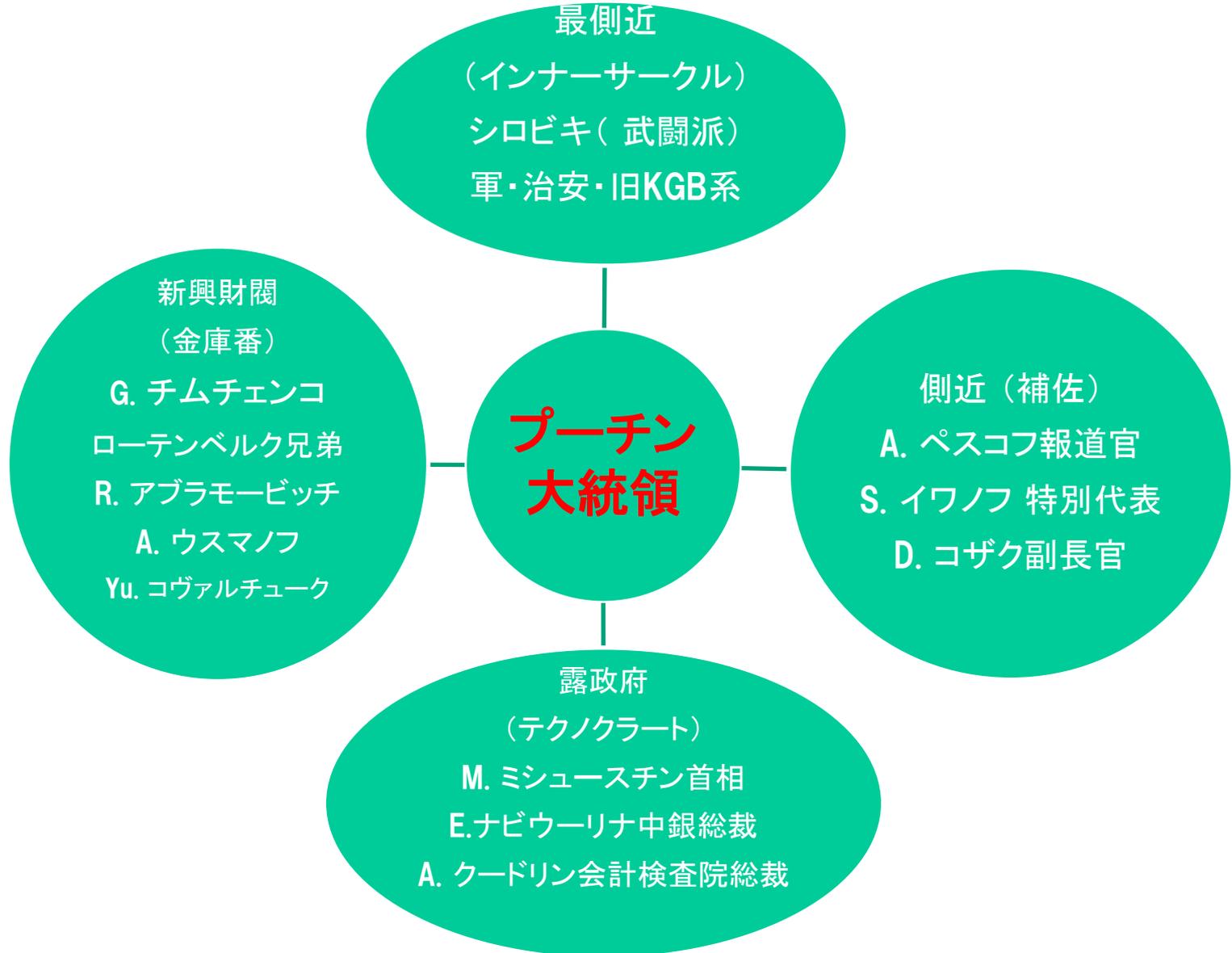
ソ連邦崩壊の底流 → 油価下落・低迷 5

- 1985年9月13日ウ: サジアラビアのヤマニ石油相、原油増産発表
→ 油価暴落、以後油価低迷 → ソ連邦崩壊 → 露エリツイン退場



ロシアの政策決定者（2023年）

□ インナーサークルが政策決定者（最終決定者はプーチン）



ロシアの近未来

● V.プーチン登場の背景:

- ➡ プーチンは優秀なので首相・大統領になったのではない
- ➡ 軽い神輿として、オリガルヒの操り人形として担がれた

● 侵攻結果 ➡ 石油・ガスの流れが変わる:

- 欧米メジャー撤退 → 露石油・ガス産業衰退へ
- 対露経済制裁措置強化 → 露LNG産業衰退へ

● ロシアの近未来／周辺国への影響:

- 経済弱体化 → 但し、プーチン失脚・早期辞任はない
- 中央アジアの露離れ加速／芬・瑞典NATO加盟促進
- 中国・印度の対露距離感（安値ウラル原油の供給源）
- 中国: 漁夫の利 → ロシアの対中資源植民地化が進む

第一部：ウクライナ戦争の影響

【基本認識】プーチンの3大誤算

①油価下落／②戦争長期化／③中央アジア離反

結果：欧米メジャー露市場から撤退

➡ 露石油・ガス産業は弱体化する

(欧米メジャー撤退 → 露原油・ガス生産量低下)

注目点：中国の動き (中国の悪夢 → 露に親米政権誕生)

【ウクライナ軍事侵攻の意味するもの】

ロシアの戦略的敗北 (→ 欧米市場喪失)

【戦争終結の姿は？】

戦争は膠着化・消耗戦に

ウクライナ軍とロシア軍の戦力比較 9

- 2022年1月現在の戦力比（出所：2022年1月23日付けGlobal Firepower）
- ロシア軍：5軍管区（東部／中央／南部／西部軍管区＋北洋艦隊）

	ウクライナ軍	ロシア軍
総兵力	20万人	85万人
予備役	25万人	25万人
軍用機	98機	1511
輸送機	32機	445
戦略爆撃機	5機	132
ヘリ	146機	2087
戦車	2,596輛	12420
装甲車	12303輛	30122
自走砲	1067輛	6574
軍艦	38隻	605
軍事費	119億ドル	1540

ウクライナ大本営発表／露軍被害状況¹⁰

ロシア軍被害状況	23年11月8日現在	11月7日
戦死者数	308,720 (+1,080)	307,640
戦車	5,316 (+15)	5,301
装甲車	10,014 (+18)	9,996
軍用トラック	9,853 (+39)	9,814
大砲	7,475 (+36)	7,439
多連装ロケット発射台	875 (+3)	872
対空火器管制システム	322 (-)	322
巡航ミサイル	1,557 (+1)	1,556
軍用機	322 (-)	322
軍用ヘリコプター	324 (-)	324
軍艦	20 (-)	20

欧米メジャー撤退→露石油ガス産業衰退¹¹

◆結論：露経済は弱体化する（→欧米の脱ロシア化の動き加速）

- ・プーチンのウクライナ侵攻は従来中立国のNATO加盟を促進
- ・欧米の対露経済制裁は効果大 → 露石油・ガス産業衰退 → 露経済弱体化

◆欧米石油・ガス関連企業はロシア市場から撤退開始（2022年）：

- ・英BP・シェル／(ノ)エクイノール／米EoM等々撤退発表 → 露産業弱体化へ

◆注目企業 → 仏トタルの動静：

- ・欧米石油メジャーはレピュテーション・リスクを理由にロシア市場から撤退表明
→ 現段階で最大の注目点は**仏トタルの動向**。
→ 従来は「新規投資はしない」との姿勢であったが、Novatek社の株式売却。
- ・ヤマル半島のヤマルLNGでは20%の大株主にしてオペレーター（主操業者）、且つ最大のLNG引き取り手。後続のギダン半島Arctic LNG 2でも、10%の株主にしてオペレーター。Arctic LNG 2は生産開始前だが、露Novatekも中国勢もLNGプラントの操業経験なし。
- ・稼働中のヤマルLNG操業と合わせて、仏トタルがArctic LNG 2プロジェクトから完全撤退すれば、ロシアのLNG生産はマヒして、露LNG生産は低下・全面停止へ。
- ・英シェルや米EoMは既に撤退したが、トタルが撤退する場合重みが全く異なり、**露LNG戦略は崩壊する** → ペトロパブロフスクLNG積替え基地建設構想破綻へ

露石油・ガス産業に対する増税案採択¹²

- ◆露国庫財政は2022年以降大幅赤字 → 露政府大增税案可決
- ◆増税案概要（2023年1月から3年間の期限立法）は以下の通り；
 - 原油輸出関税を算出する係数を大幅に上げ、石油（原油＋石油製品）輸出関税を増税する。
 - P/Lガス輸出関税を現行30%から（ガス価格千立米当たり\$300以上の場合）50%に引き上げる。
 - 国内ガス価格を引き上げる。
 - LNGを生産・輸出する業者に対する企業利潤税を34%に引き上げる（従来20%）。34%の内訳：連邦税と地方税折半
 - ヤマルLNG用天然ガス鉞区地下資源採取税免税を廃止して、地下資源採取税を課税する（S-2も同様）。

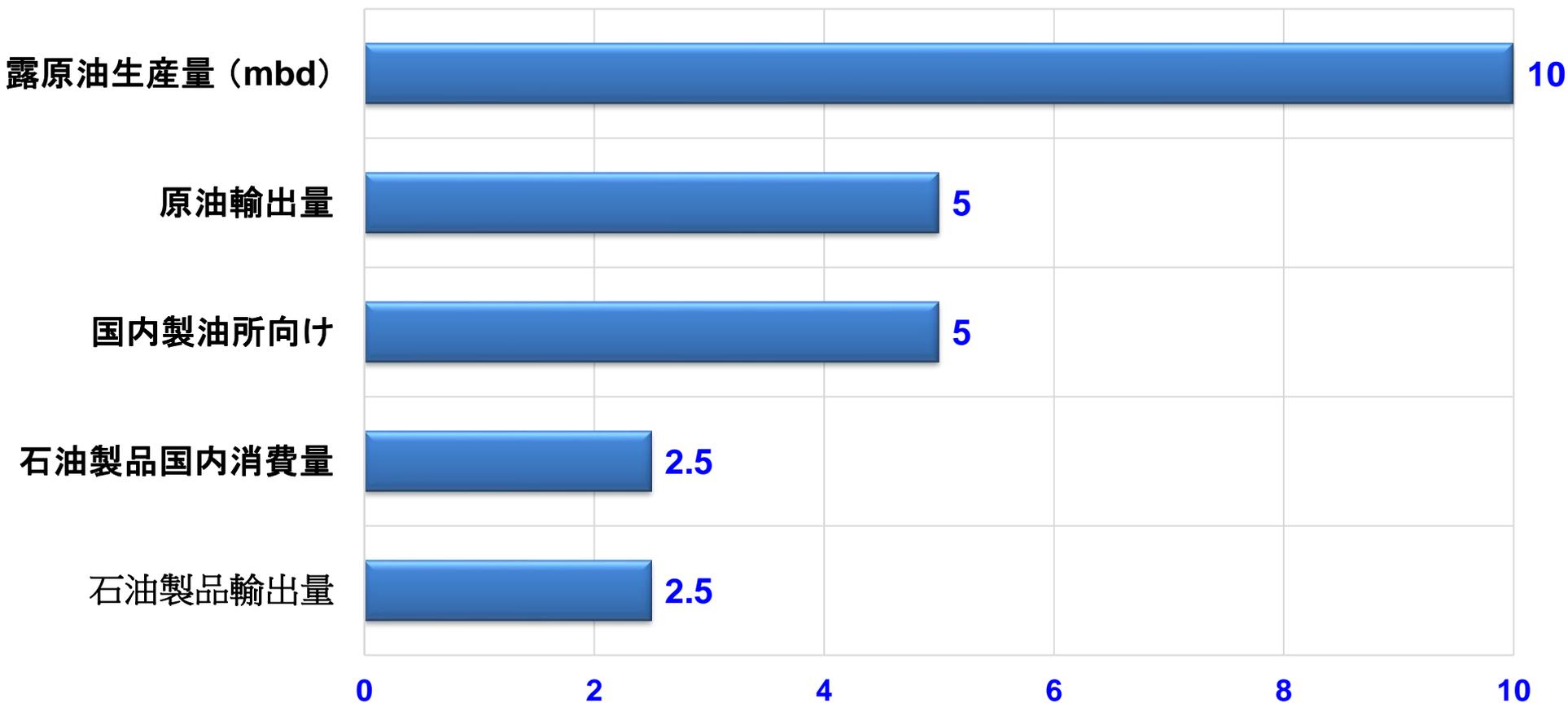
↓ ↓ ↓ ↓ ↓

- ◆大增税案の影響 → 露石油・ガス産業の疲弊・弱体化不可避
（露ガスプロム経営悪化）

露石油(原油と石油製品)生産量・輸出量概念図 13

- 原油(Crude oil) + 石油製品(Oil products) = 石油(Petroleum)
- 露原油生産量10mbd → 半分が輸出、半分が国内精製
- 石油製品(主に軽油と重油) → 半分が輸出、半分が国内消費

露原油生産量・輸出量概念図 (mbd)



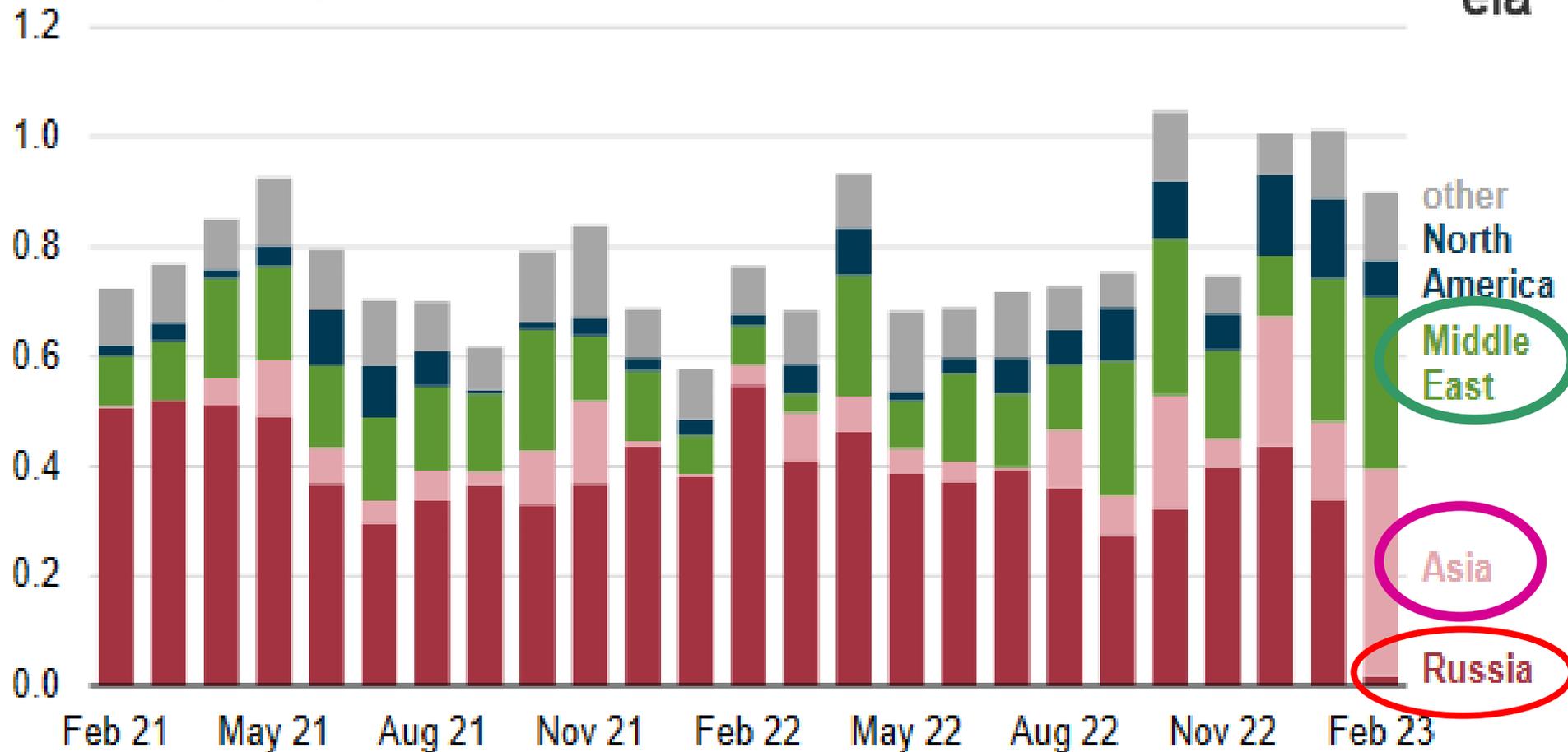
欧州／ロシア産軽油輸入量推移

□ 欧州市場：ロシア産ディーゼル油輸入急減

(出所：米EIA／2023年3月度STEO)

Monthly diesel imports into Northwest Europe, by region of origin (Feb 2021–Feb 2023)

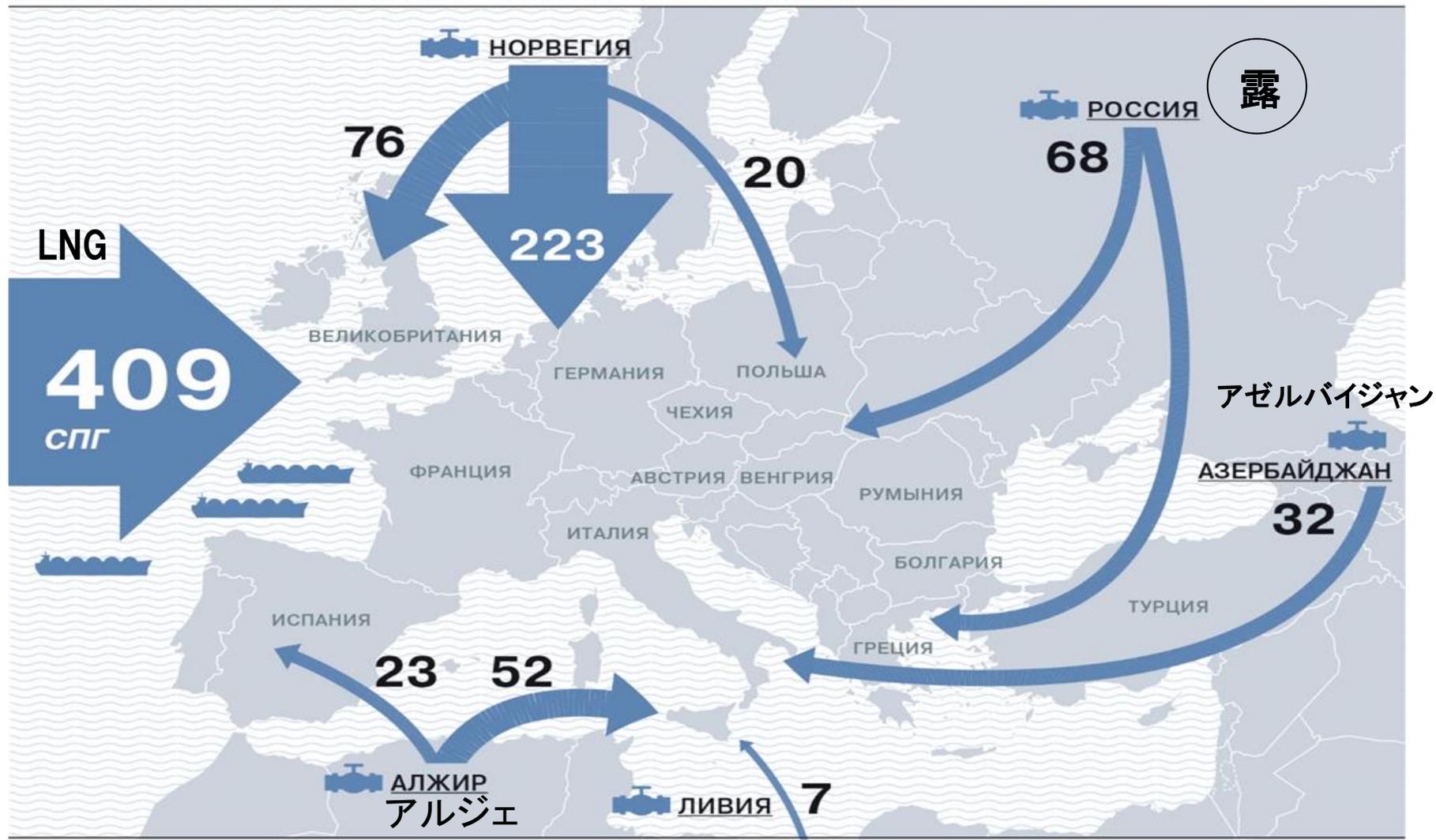
million barrels per day



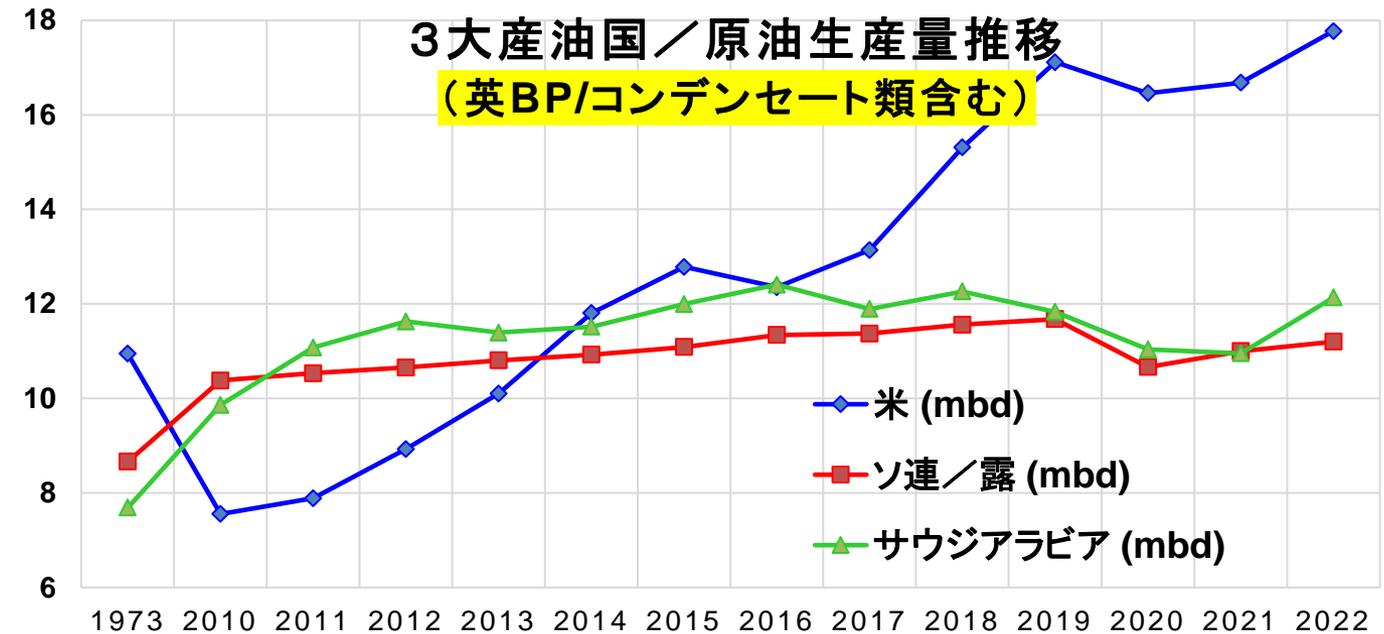
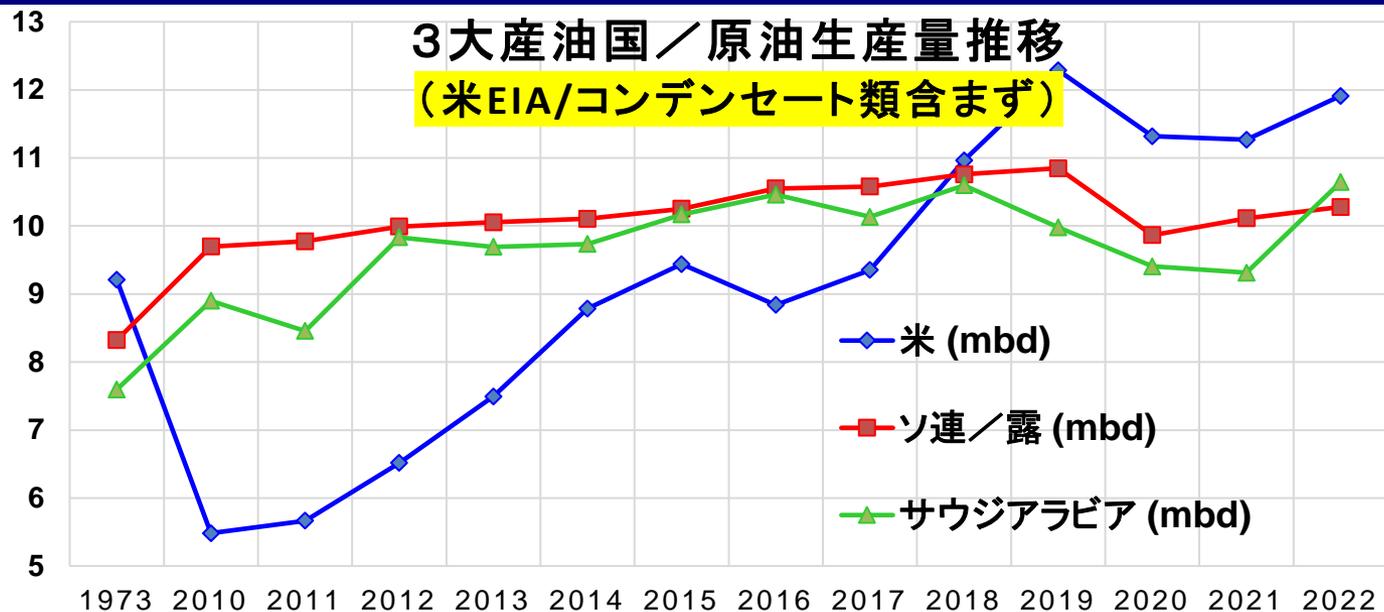
欧州向け国別天然ガス輸出力概観

2023年第1四半期：欧州向け天然ガス国別輸出力量（単位：mcmd）

ПОСТАВКИ ГАЗА В ЕВРОПУ В ПЕРВОМ КВАРТАЛЕ 2023 ГОДА
(МЛН КУБОМЕТРОВ В СУТКИ) ИСТОЧНИКИ: S&P GLOBAL, ENERGY INTELLIGENCE, ENTSOG.



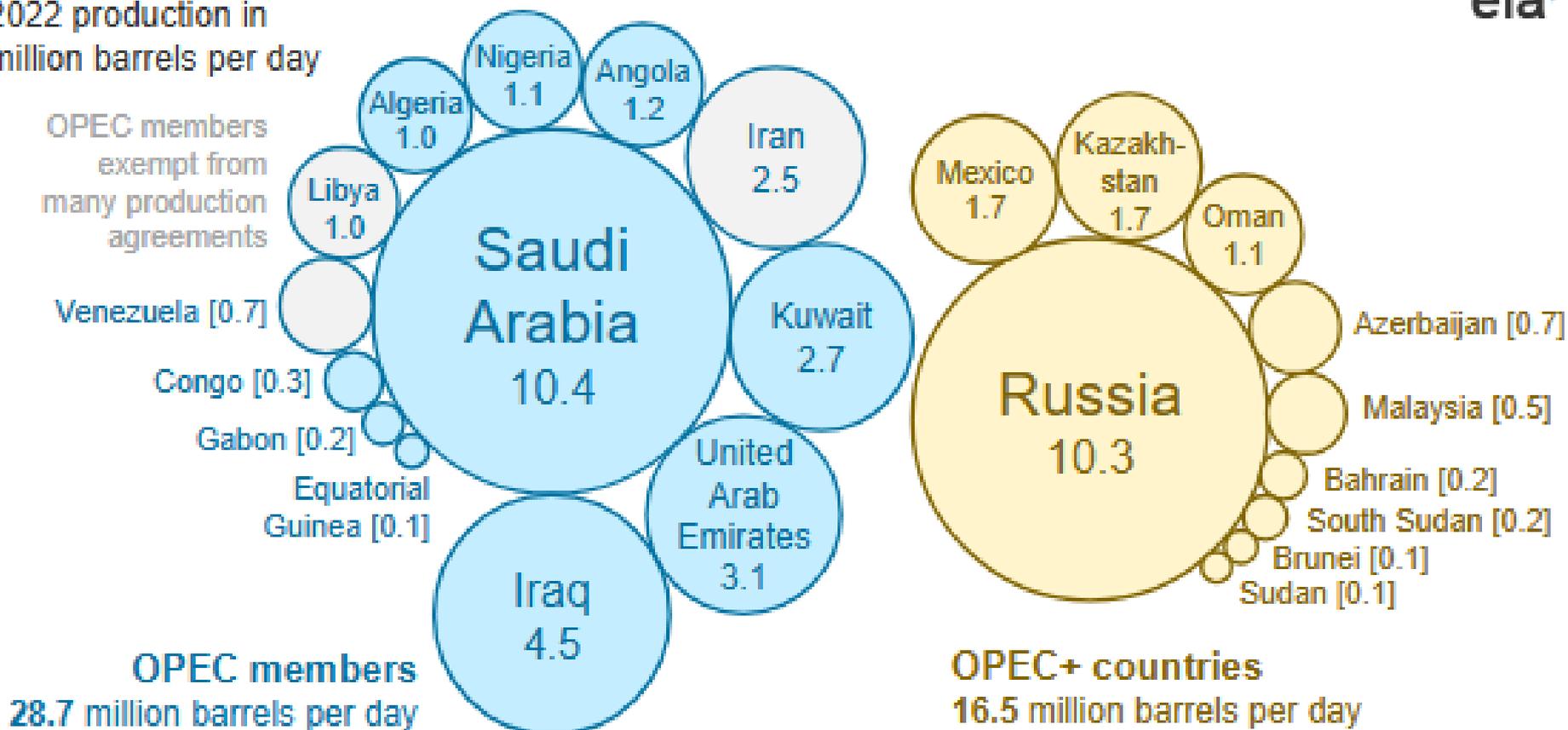
第二部：油価動静と世界の3大産油国¹⁶



OPEC と OPEC+ / 原油生産量概観

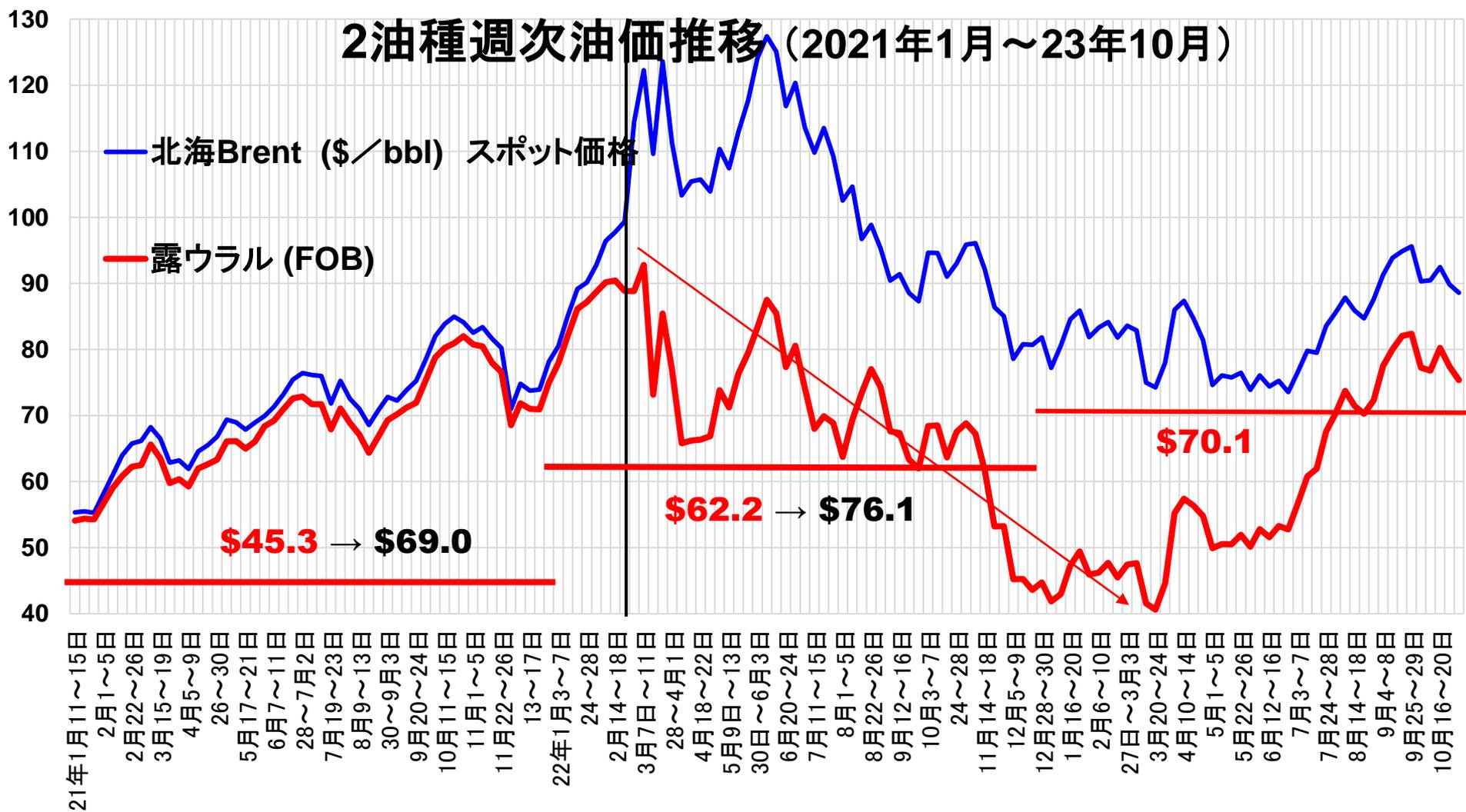
- OPEC 13か国 / OPEC+ 23か国 (出所: 米EIA / mbd = 百万バレル・日量)
- OPEC: 原油生産量はコンデンセート類含まず ⇔ OPEC+ 含む

Total oil production from OPEC members and OPEC+
2022 production in million barrels per day



2油種週次油価推移 (21年1月～23年10月)¹⁸

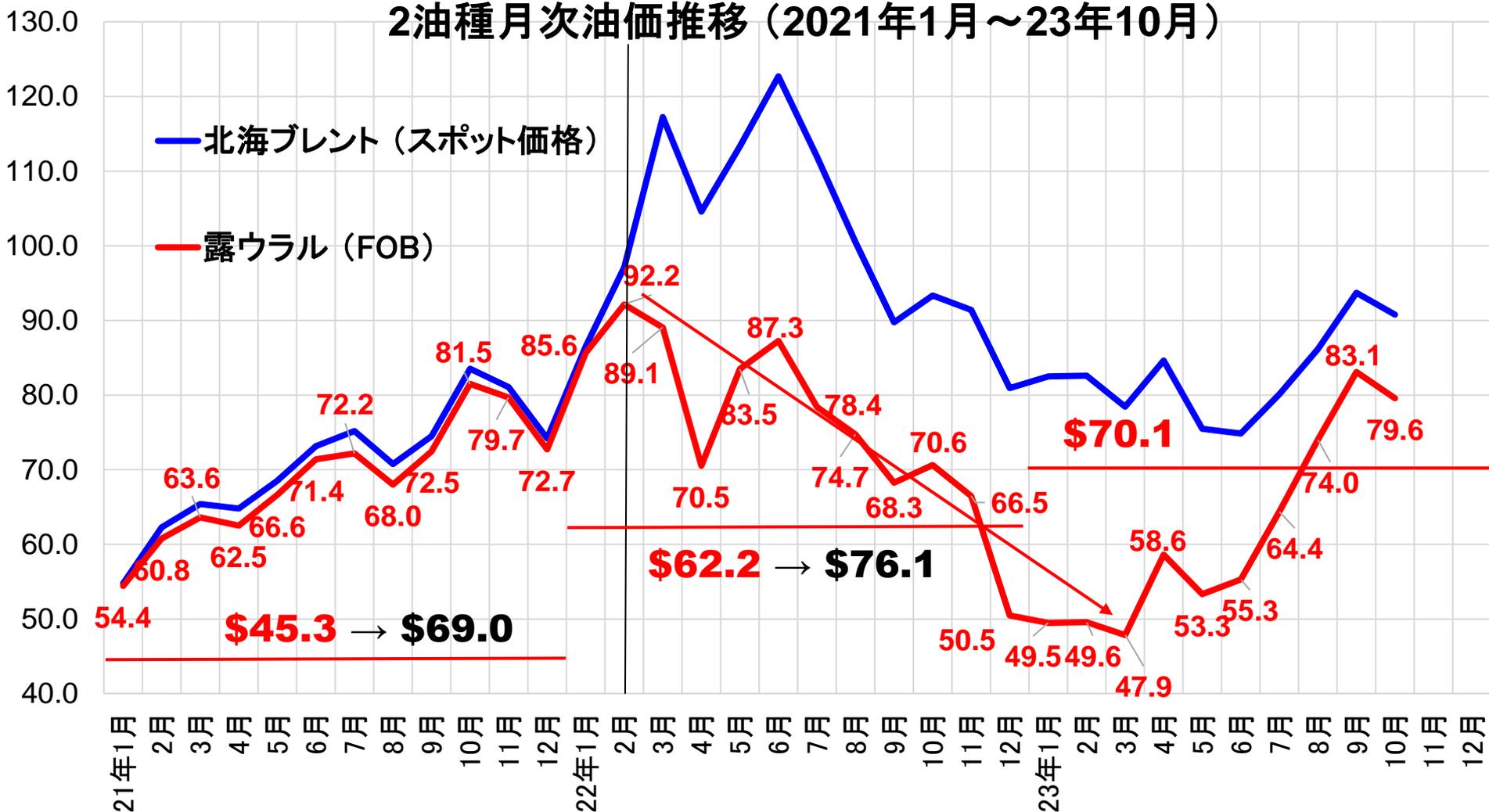
- 露ウラル原油: 露軍のウクライナ侵攻(22年2月24日)後、油価下落
- 露国家予算案想定油価: 21年\$45.3 → 22年\$62.2 → 23年\$70.1



2油種／月次油価推移 (\$/bbl)

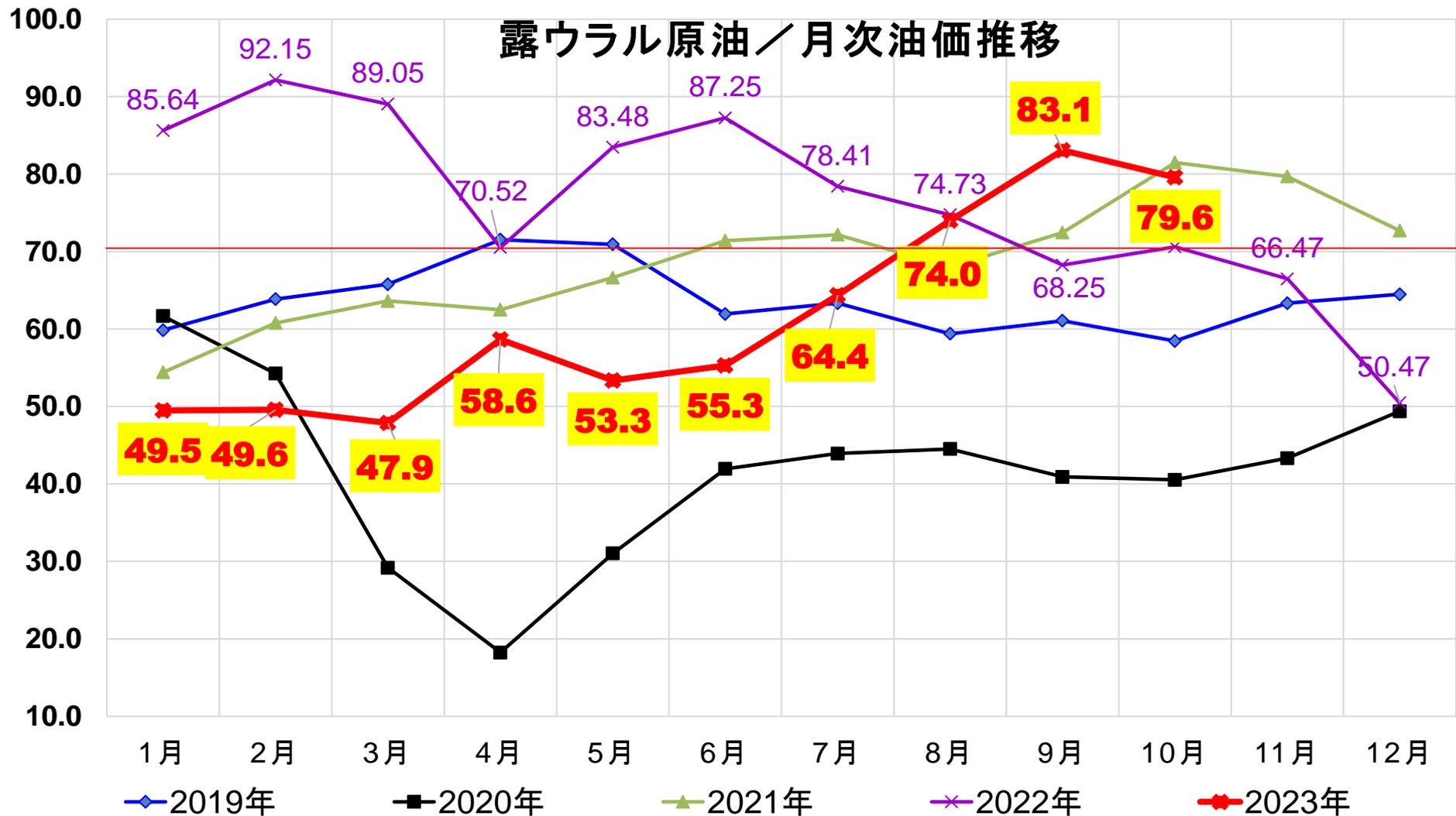
- 露予算案想定油価と実績：21年想定油価 **\$45.3** → 実績 **\$69.0**
 22年想定油価 **\$62.2** → 実績 **\$76.1** / 23年想定油価 **\$70.1** → 実績？

2油種月次油価推移 (2021年1月～23年10月)



露ウラル原油／月次油価推移 (\$/bbl) 20

- 国家予算案想定油価と実績：2021年想定油価 \$45.3 → 実績 \$69.0
22年想定油価 \$62.2 → 実績 \$76.1／23年想定油価 \$70.1 → 実績？

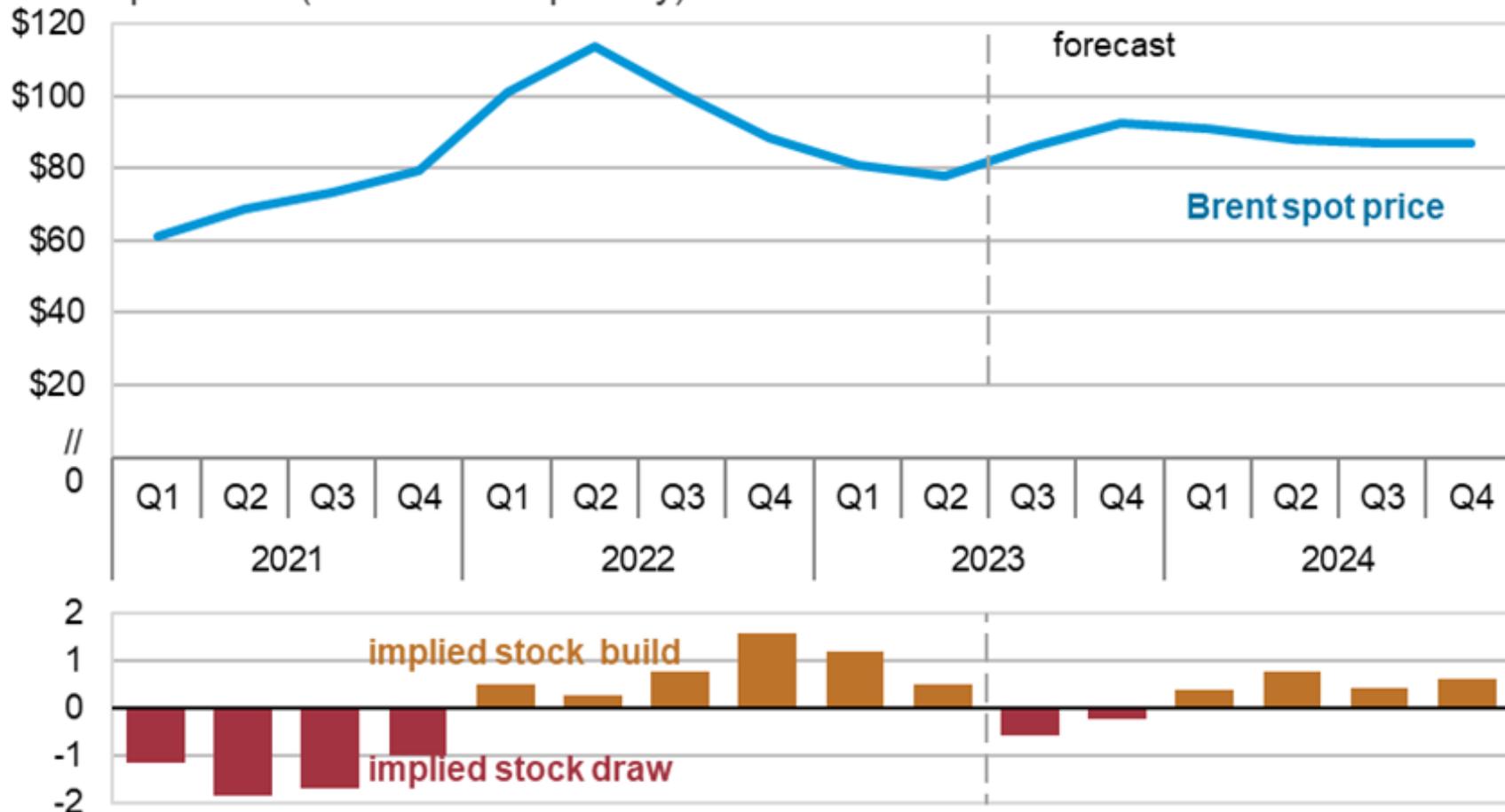


米EIA/STEO 9月度短期需給予測

- 23年前半：需給緩和 → 油価下落傾向に
- 23年後半：需給逼迫 → 油価上昇 → 24年：横這い

Brent crude oil spot price and global inventory changes

dollars per barrel (million barrels per day)

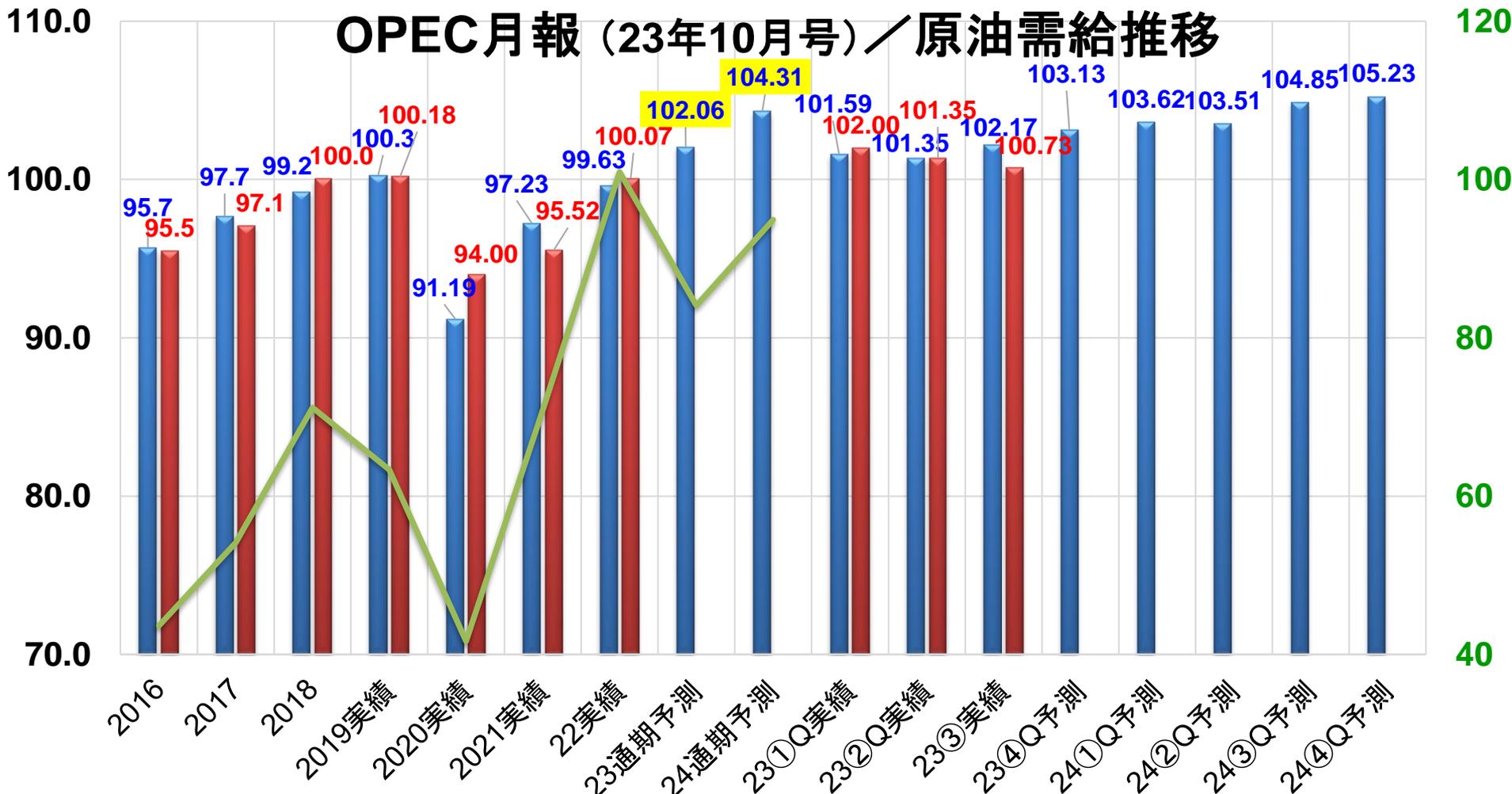


Data source: U.S. Energy Information Administration, *Short-Term Energy Outlook*, September 2023

OPEC月報 (23年10月号) / 世界の原油需給推移 22

□ 23年需要予測 102.06 mbd (23年9月度比+/- 0)

□ 24年需要予測 104.31 mbd (同+/- 0)

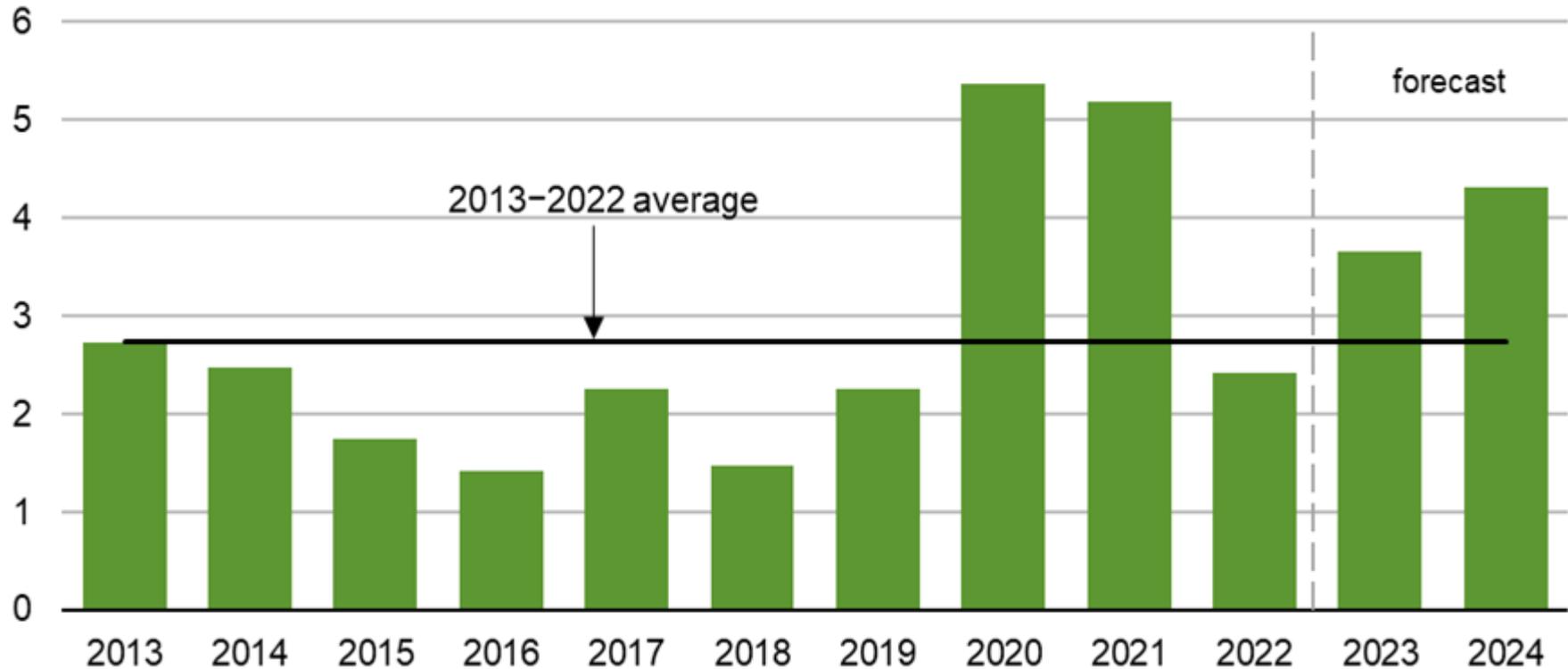


■ 左軸 : 原油需要量 (mbd) ■ 左軸 : 原油供給量 (mbd) — 右軸 : 北海Brent 油価 (\$/bbl)

OPEC原油生産余力推移

- 2013～22年平均原油生産余力：2.7mbd（出所：EIA／STEO 2023年11月号）
- 原油生産余力：2023年 3.7mbd／24年 4.3mbd

Organization of the Petroleum Exporting Countries (OPEC) surplus crude oil production capacity
million barrels per day



Data source: U.S. Energy Information Administration, *Short-Term Energy Outlook*, November 2023

Note: Black line represents 2013-2022 average (2.7 million barrels per day).

第三部：露国家予算案概観 (2022年)²⁴

2022年国家予算案概観	2022年
政府想定油価予測(\$/バレル)	\$62.2
歳入(兆ルーブル)	25.02
歳出(兆ルーブル)	23.69
(うち)国防費	3.51
黒字/赤字(兆ルーブル/GDP比%)	1.328/1.0%
歳入に占める石油・ガス税收割合(%)	38.1%
GDP(兆ルーブル)	133.33
GDP成長率(%)	3.0%
インフレ(%)	4.0%
平均為替レート(US\$/ルーブル)	72.1

露国家予算案と実績 (2022~23年)²⁵

□ 2022年期首予算案は黒字案 → 戦争の結果、赤字予算

露国家予算案	2022 期首予算案	2022 実績	2023 期首予算案	2023 (1~10月実績)
原油生産量 (百万屯)	560	534	490	n/a
予算案想定油価 (ウラル原油/\$・bbl)	62.2		70.1	70.1
油価実績(\$・bbl)		76.1		61.8
歳入 (兆ルーブル)	25.02	27.83	26.13	23.11
歳出 (兆ルーブル)	23.69	31.13	29.06	24.34
黒字／▲赤字 (GDP比%)	1.33／ 1.0%	▲3.31／ 2.0%	▲2.92／ 2.0%	▲1.24／ 0.7%
歳入に占める石油・ガス 税収割合(%)	38.1%	41.6%	34.2%	31.2%

露国家予算案概観（2024～26年）

- 露財政状況は油価（ウラル原油）上昇に伴い、改善の兆し
- 23年9月22日閣議了承 → 9月29日露下院提出・審議中

露国家予算案	23年 期首予算案	24年 期首原案	25年 計画	26年 計画
国庫歳入（兆ルーブル）	26.13	35.07	33.55	34.05
（内）石油ガス税込	8.94	11.50	11.76	11.42
国庫歳出（兆ルーブル）	29.06	36.66	34.38	35.59
（内）国防費	4.98	10.78	8.53	7.41
治安費	3.51	3.39	3.28	3.41
黒字／▲赤字 （GDP比%）	▲2.92／ 2.0%	▲1.6／ 0.9%	—	—
石油ガス税込（%）	34.2%	32.8%	35.1%	33.5%

ロシア産原油・ガス輸出総額

27

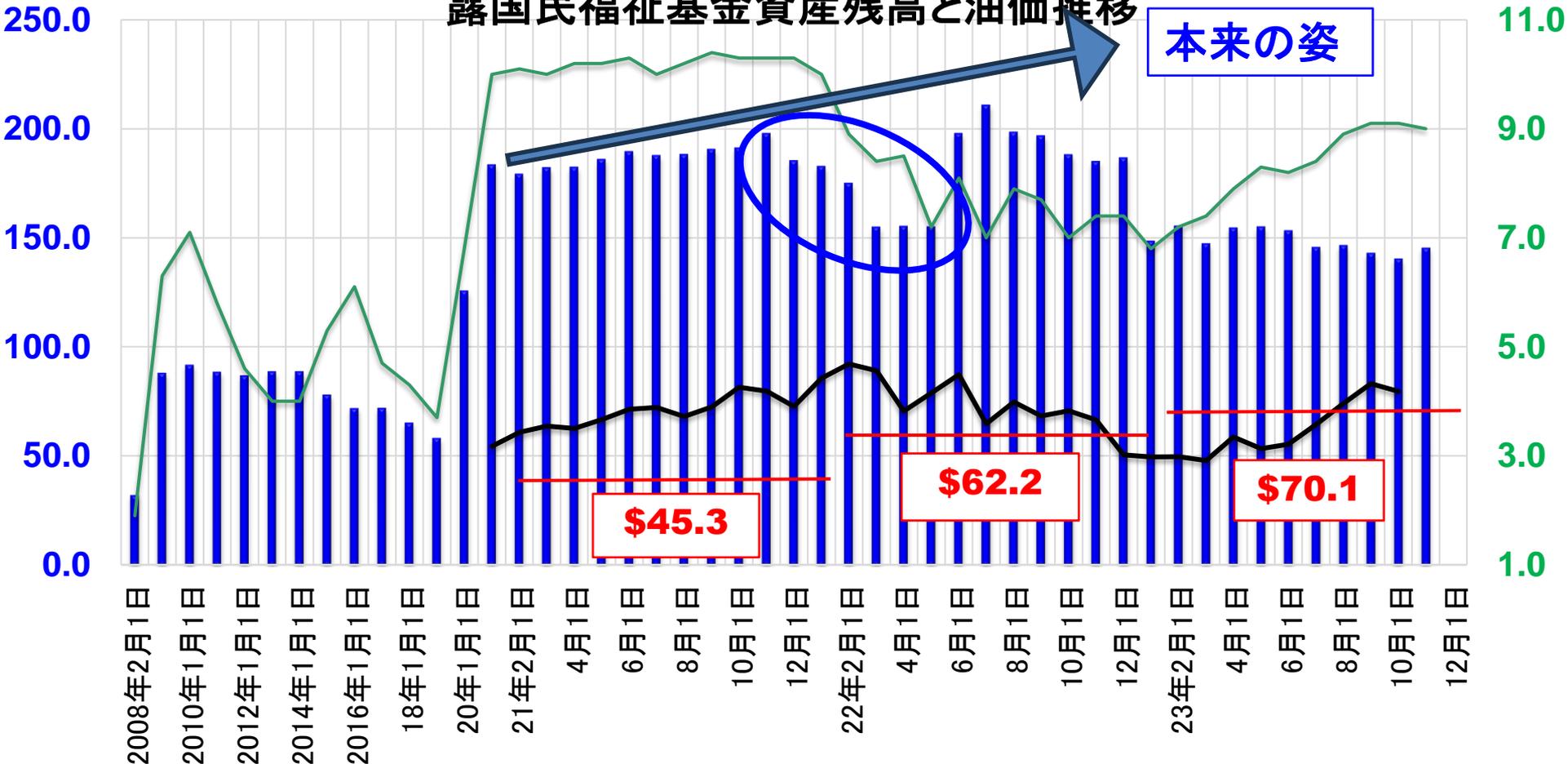
- 露連邦統計庁：2022年の露天然資源・燃料輸出額3千億ドル超
→ 欧米は2022年末までに露産原油・石油製品9割削減目標

露連邦統計庁	2020年	2021年	2021年
単位：10億ドル	(単位：10億ドル)	(単位：10億ドル)	輸出額に占める割合(%)
露輸出総額	336.39	491.58	
天然資源・燃料 輸出額	166.96	267.04	54.3%
(内)原油	72.37	110.17	22.4%
天然ガス	25.25	55.51	11.3%

ロシア国民福祉基金資産残高

- 予算案想定油価より高い場合：輸出関税増収分は福祉基金へ
- 22年想定油価 **\$62.2** → 実績 **\$76.1** / 23年想定油価 **\$70.1**

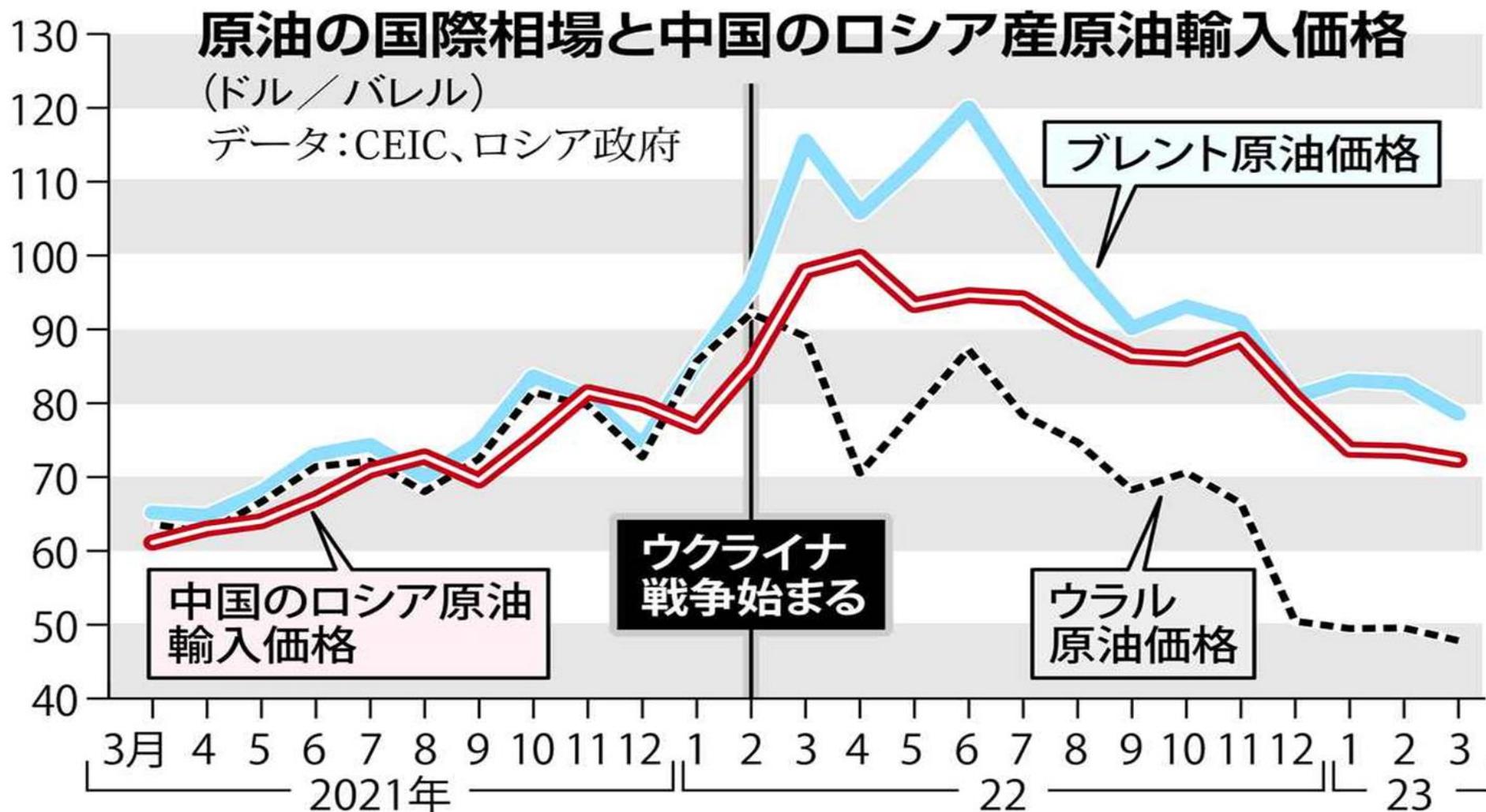
露国民福祉基金資産残高と油価推移



■ 左軸：露国民福祉基金資産残高（10億ドル） — 油価（ウラル原油/\$・bbl） — 右軸：GDP比（%）

間違いだらけのネット情報（実例）

- 2023年4月26日付けZakzak記事：（中国はESPO原油を輸入）
（要旨）中国は露産原油を\$20高く輸入して、対露支援（← 間違い）



第四部：石油・ガスの流れが変わる ³⁰

□ 露からEU諸国向け天然ガスPL輸出量激減：

2021年140bcm→22年60bcm→23年予測20～25bcm

(グラフ説明：過去40年間で最低輸出量に減少／単位：bcfd)

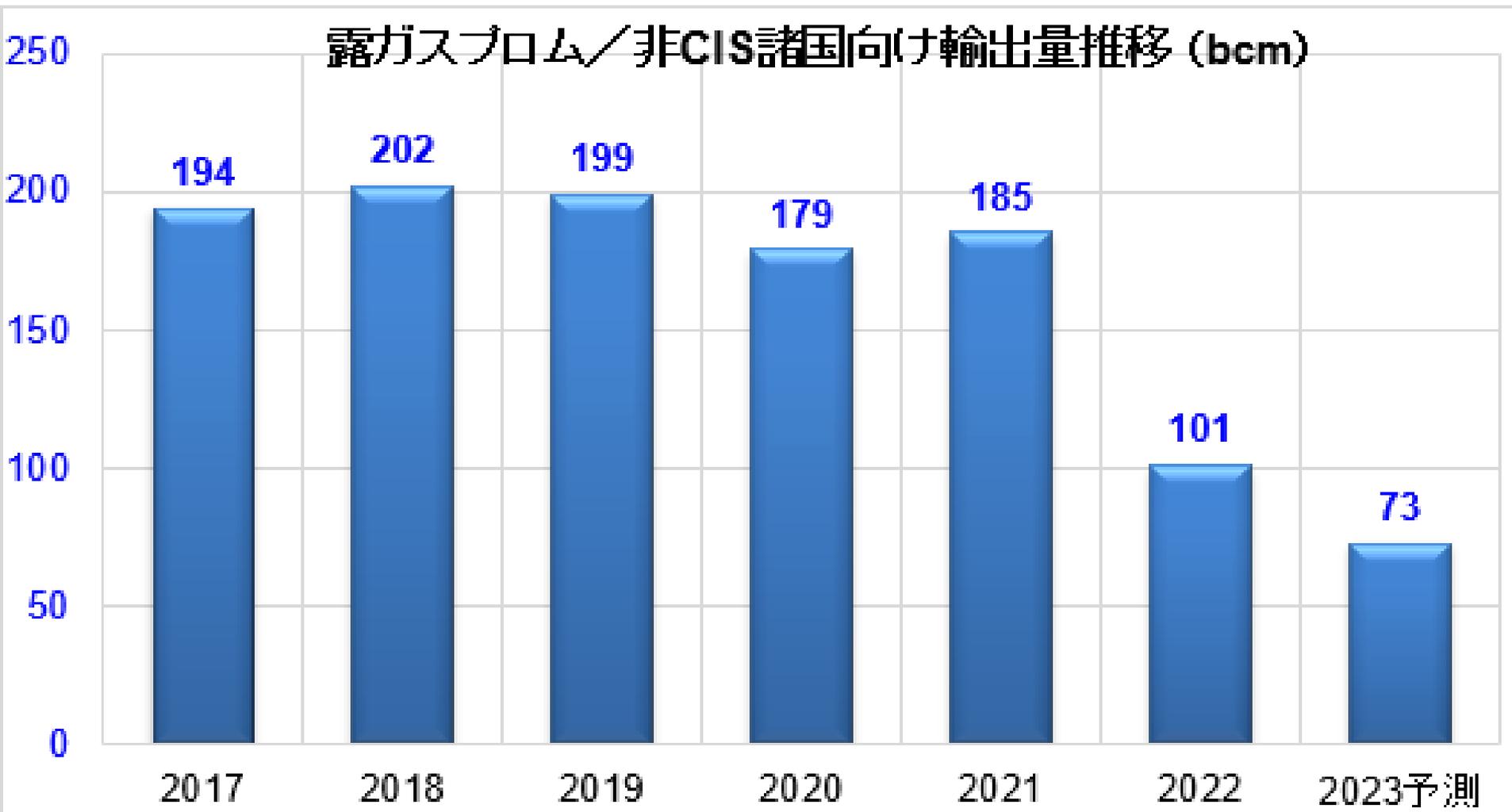
Daily natural gas pipeline exports from Russia to Europe (Jan 1, 2016–Jul 31, 2022)

billion cubic feet per day



露ガスプロム／非CIS諸国向けガス輸出推移

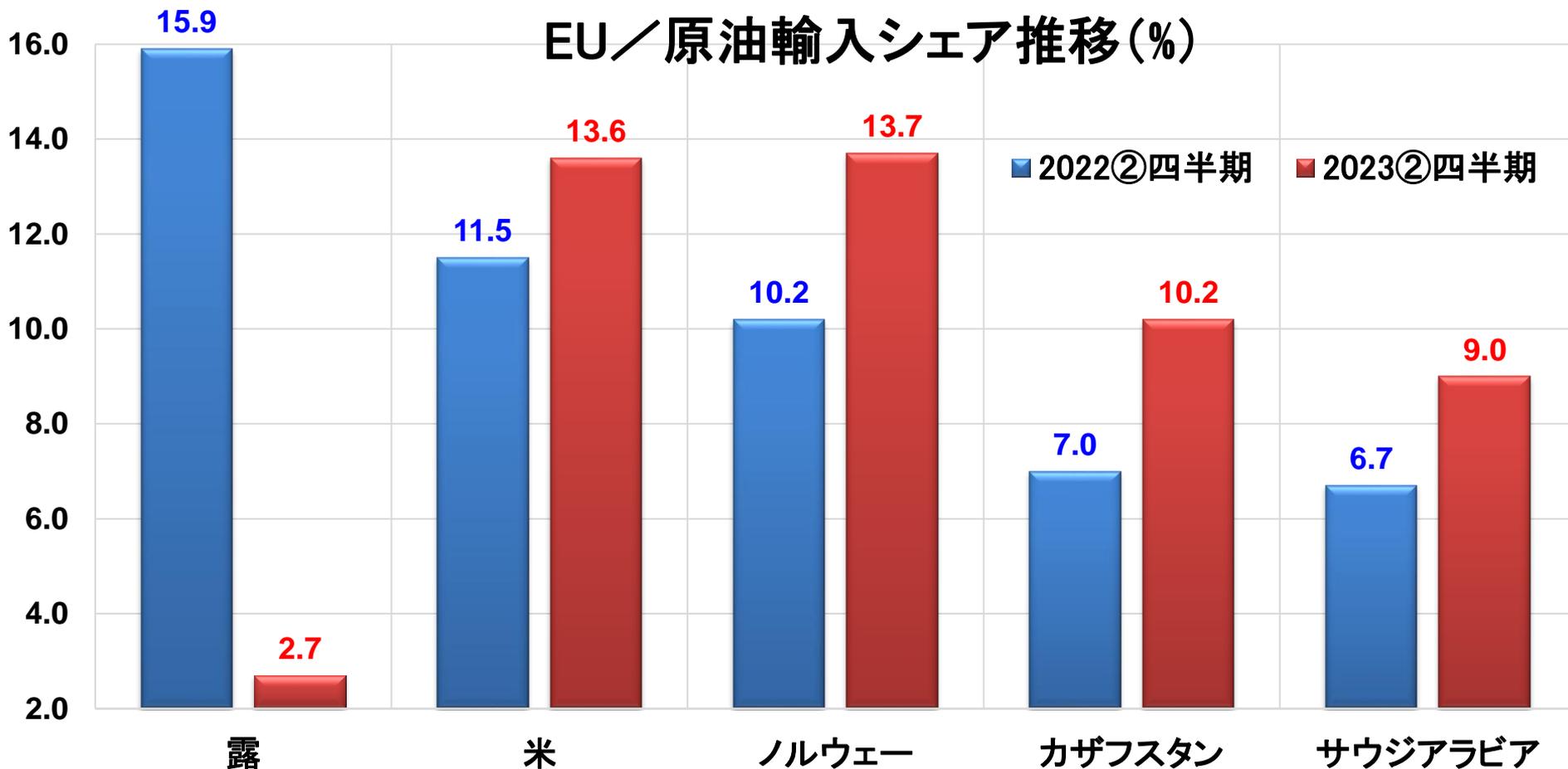
- 露ガスプロムの非CIS諸国（欧州ーバルト3国＋トルコ＋中国）向けガス輸出激減
- 2023年予測：中国向け22bcmが最大の輸出先となる



EU／ロシア産原油輸入シェア激減

- EU諸国：ロシア産原油輸入激減
- ロシア産原油（ウラル原油）：印度・パキスタン・中東・アフリカへ
- ロシア産原油（ESPO原油）：中国向け輸出拡大

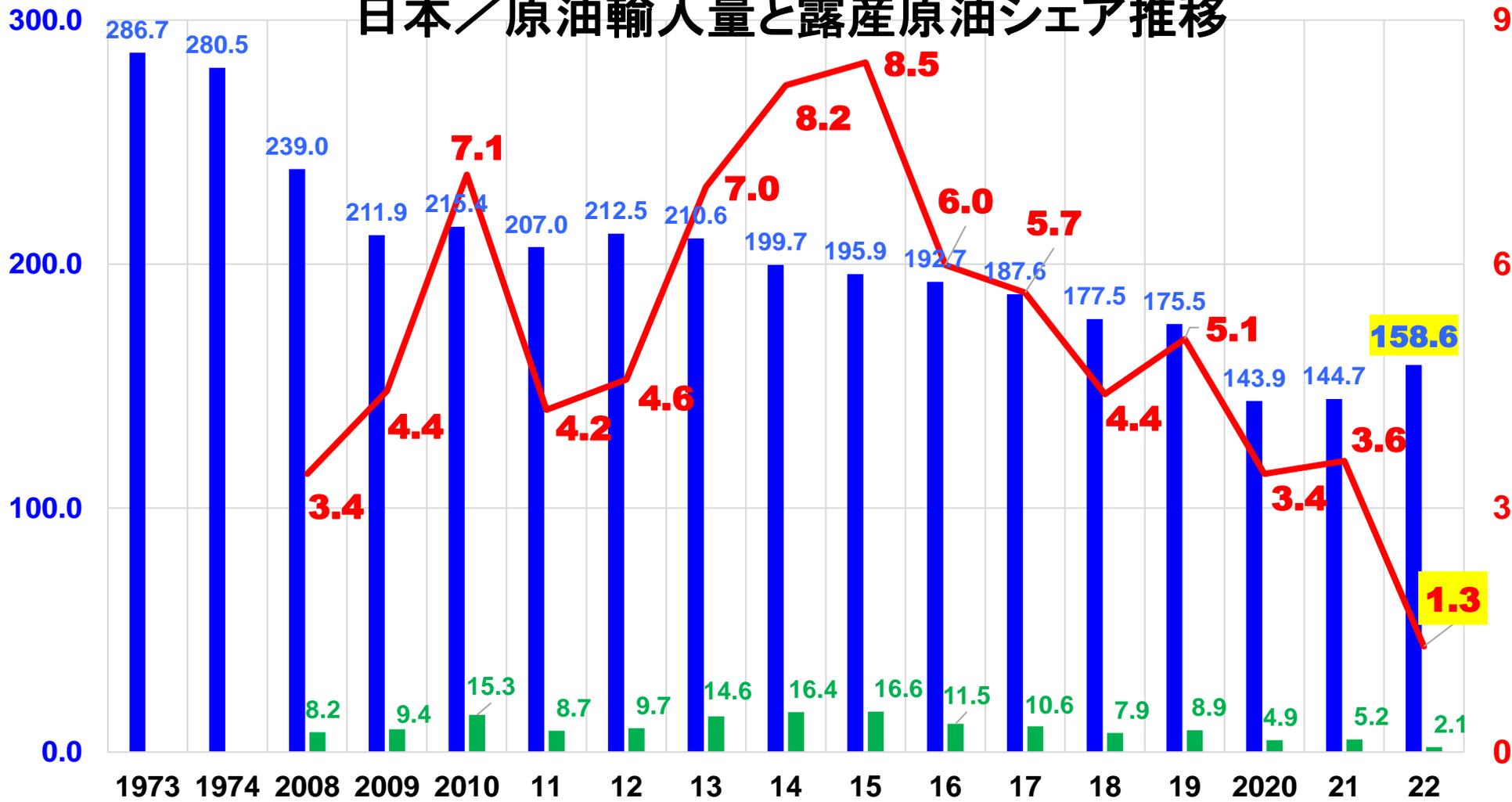
EU／原油輸入シェア推移(%)



日本／ロシア産原油輸入力推移

□ 日本の露産原油：22年6月～23年10月零（23年1月：少量輸入）

日本／原油輸入力と露産原油シェア推移



■ 左軸：原油総輸入力(百万kl)

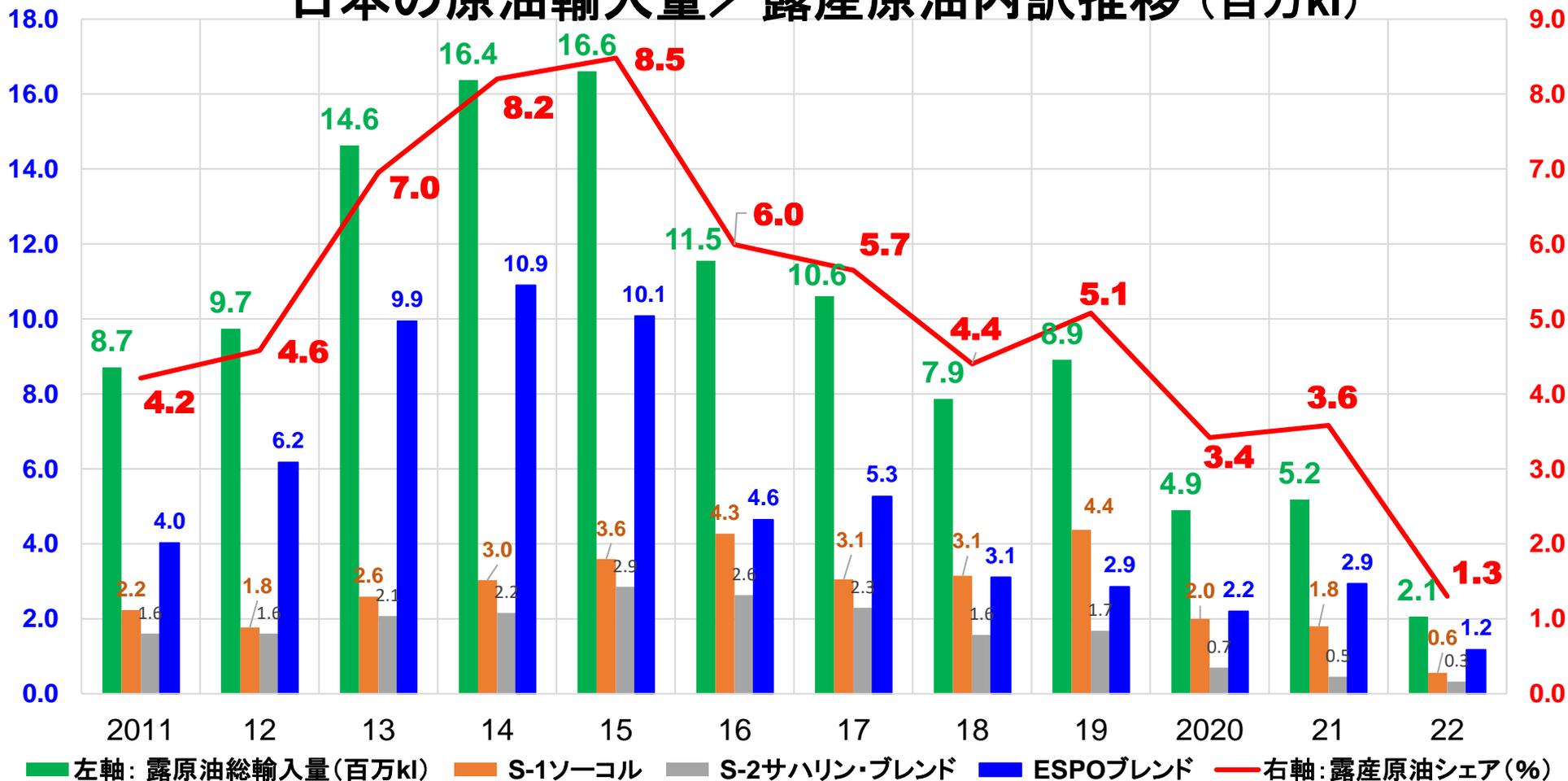
■ 露産原油輸入力

— 右軸：露シェア(%)

日本／ロシア産原油輸入力内訳推移

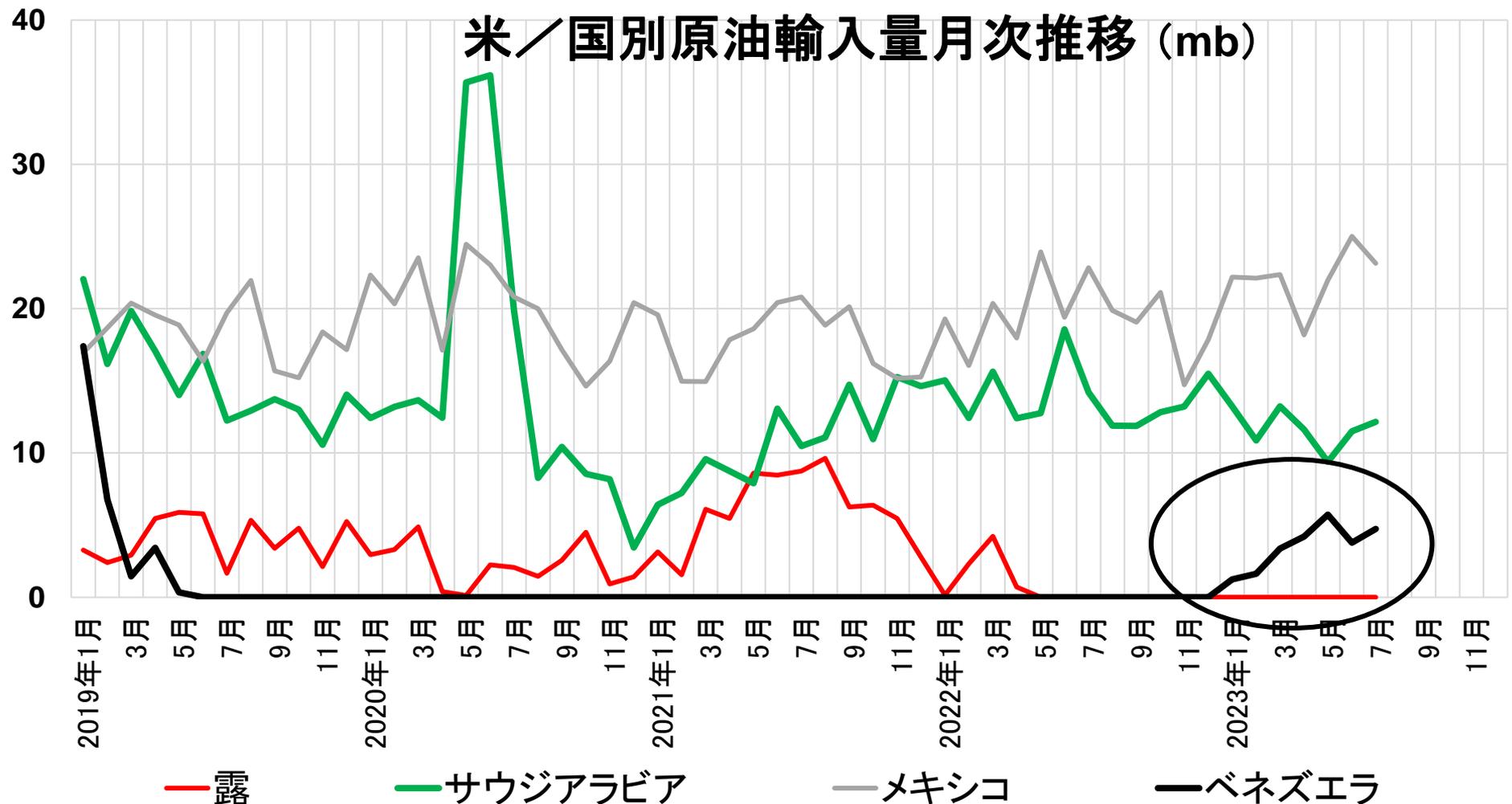
- ロシア産原油輸入：日本はウラル原油を輸入していない
- 2022年：ロシア産原油輸入シェア1.3%に低下

日本の原油輸入力／露産原油内訳推移（百万kl）

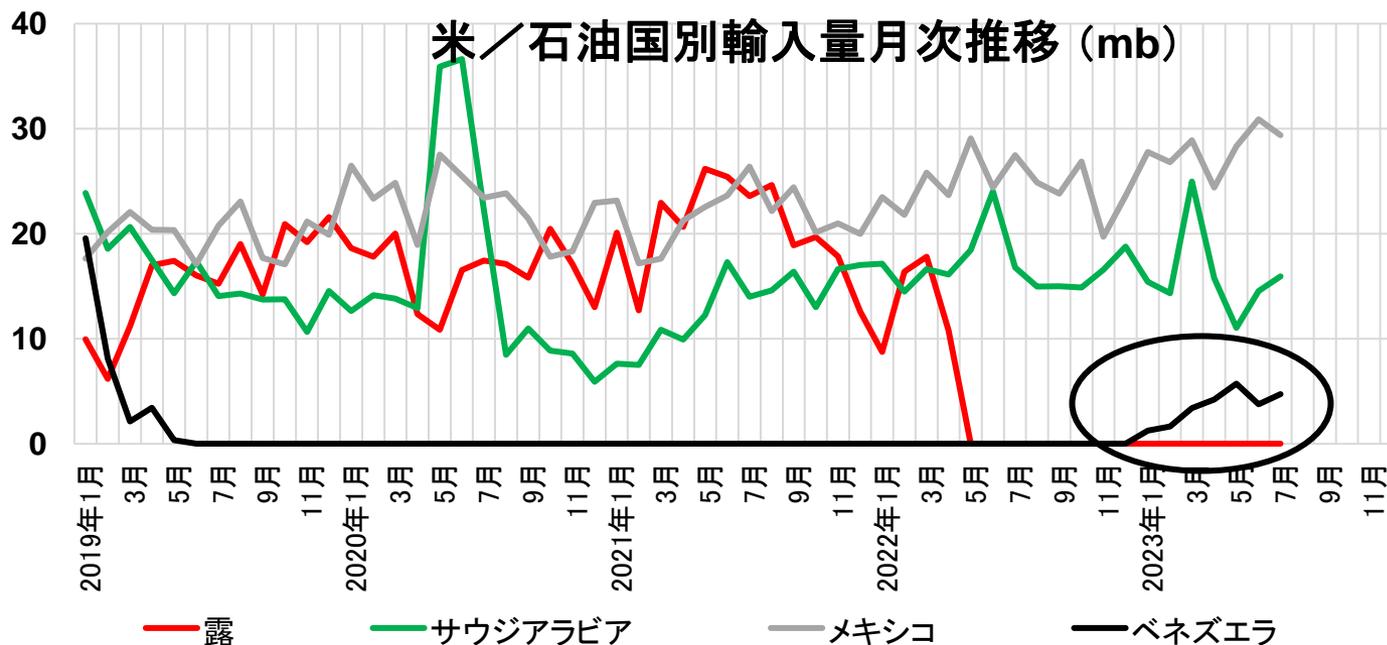
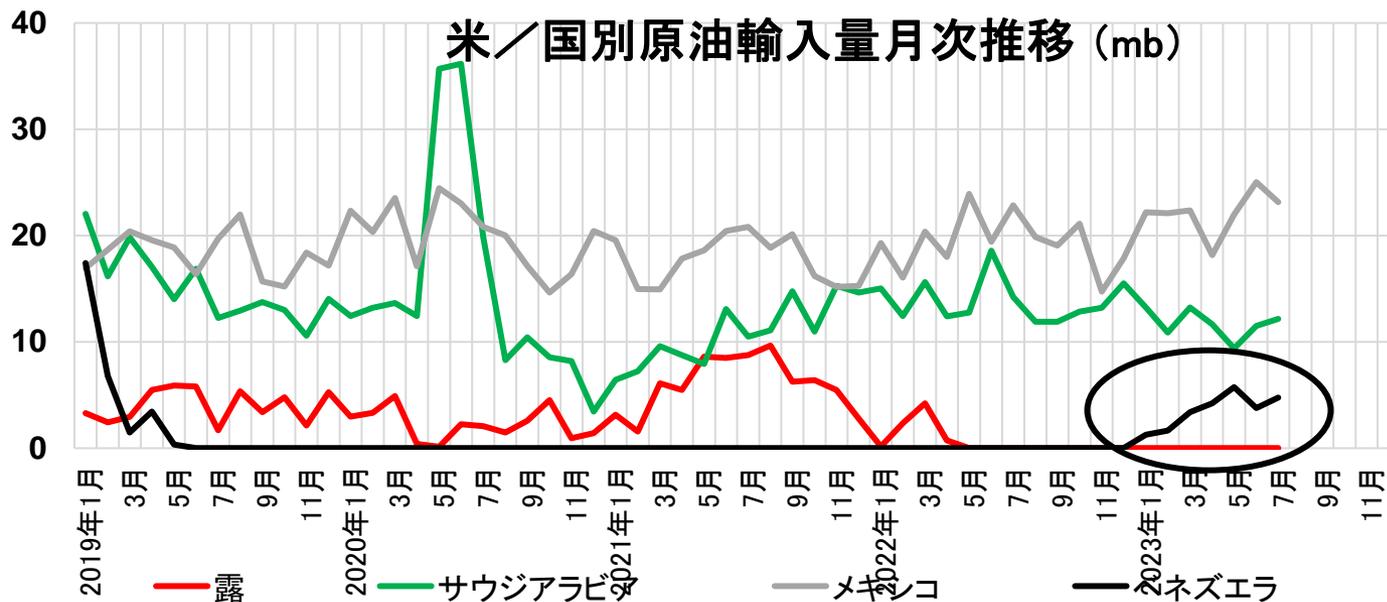


米国／原油国別輸入量推移

- 米国／原油輸入量の約6割がカナダ産原油（パイプライン輸入）（出所：米EIA）
- ベネズエラ産原油の代替品が露産原油（ウラル原油）→ 22年5月以降ゼロ
- 20年5～6月：サウジアラビア産原油輸入急増（← 中国向け輸出代替）

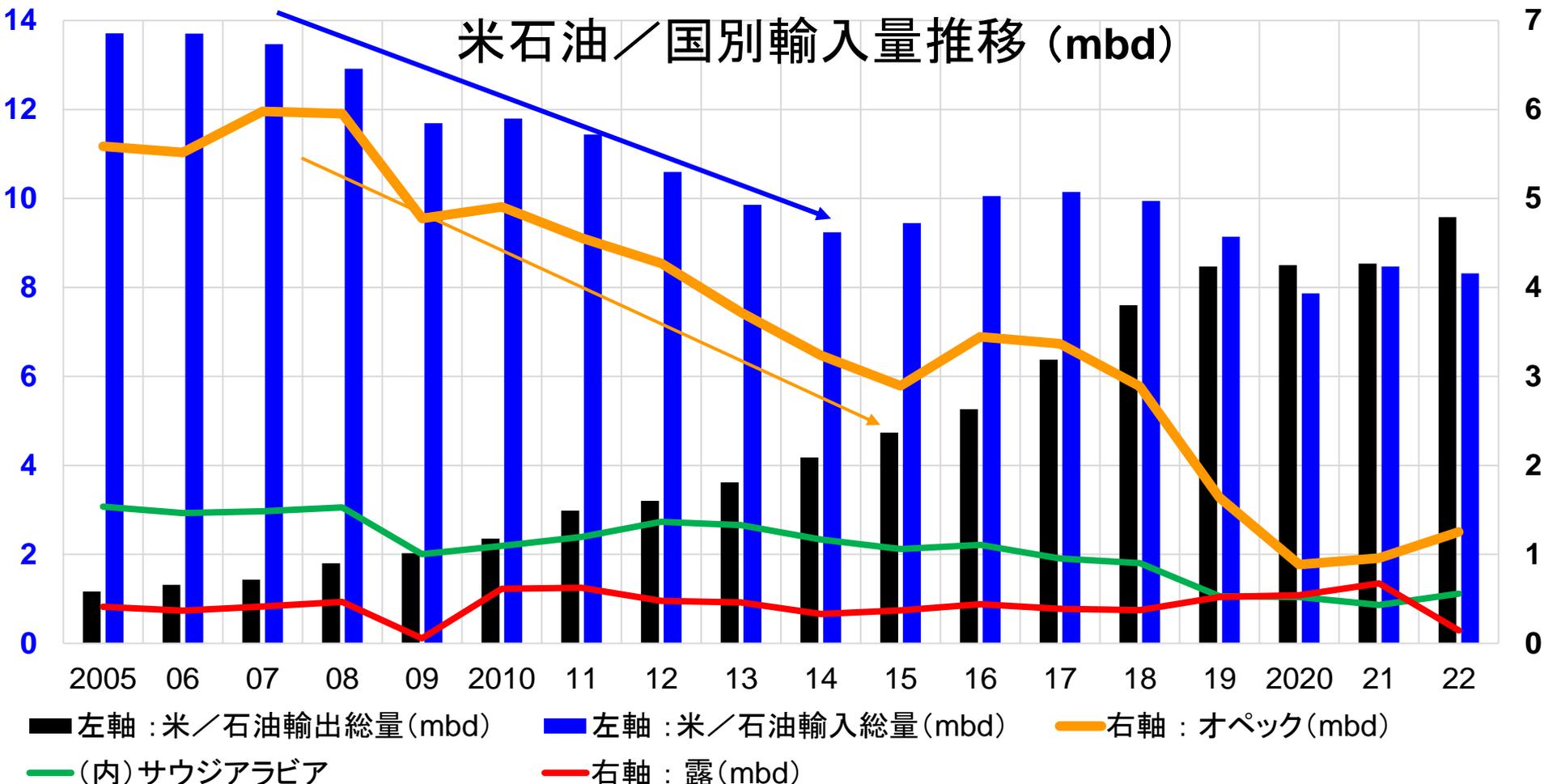


米国／原油と石油（原油＋石油製品）輸入量推移 36



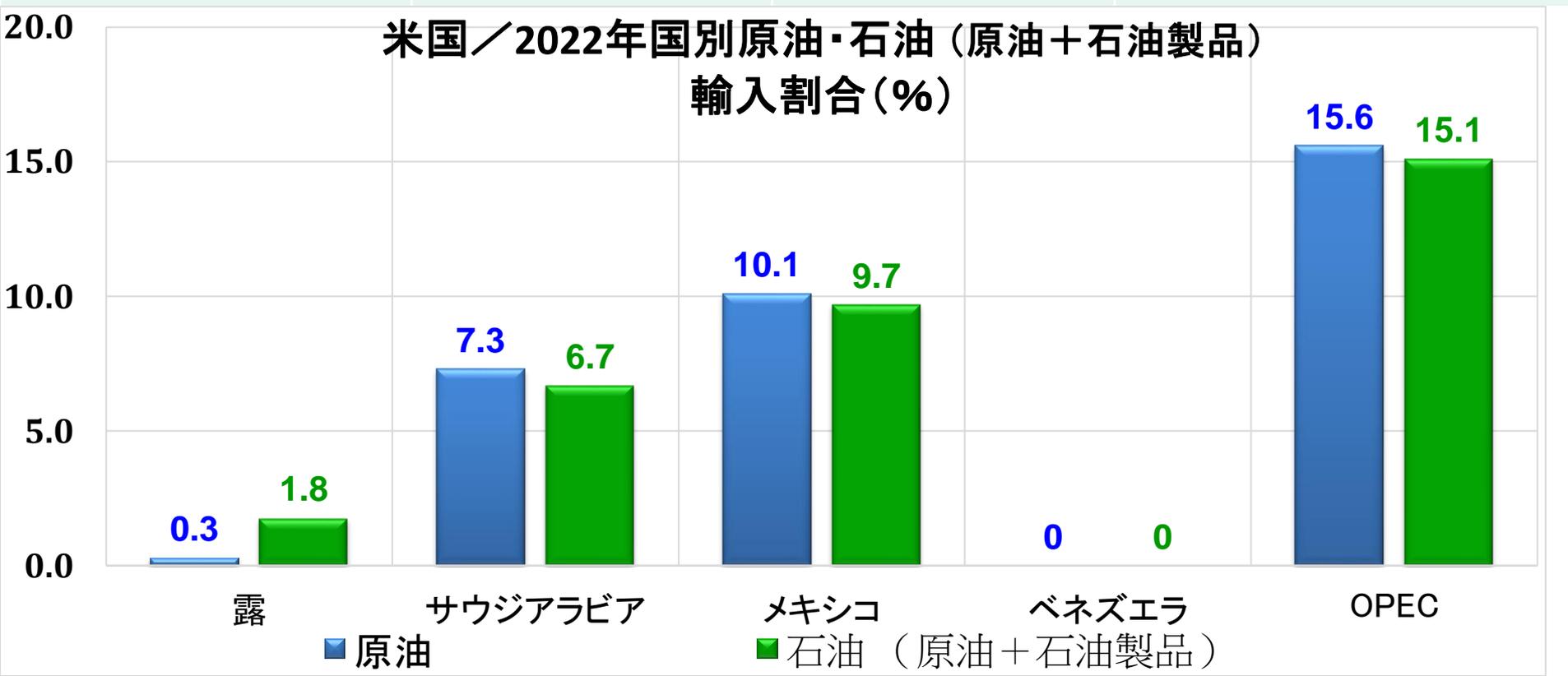
米／国別石油（原油＋石油製品）輸入量推移³⁷

- 米国の石油輸入量減少 → 特に、サウジアラビアからの輸入量減少
 - OPECの地位低下（21年11%）⇔ 米国の中東政策変化の底流
- 露産石油輸入量減少：21年 7.9% → 22年 1.8% → 23年？



米国／ロシア産石油輸入割合（2022年）³⁸

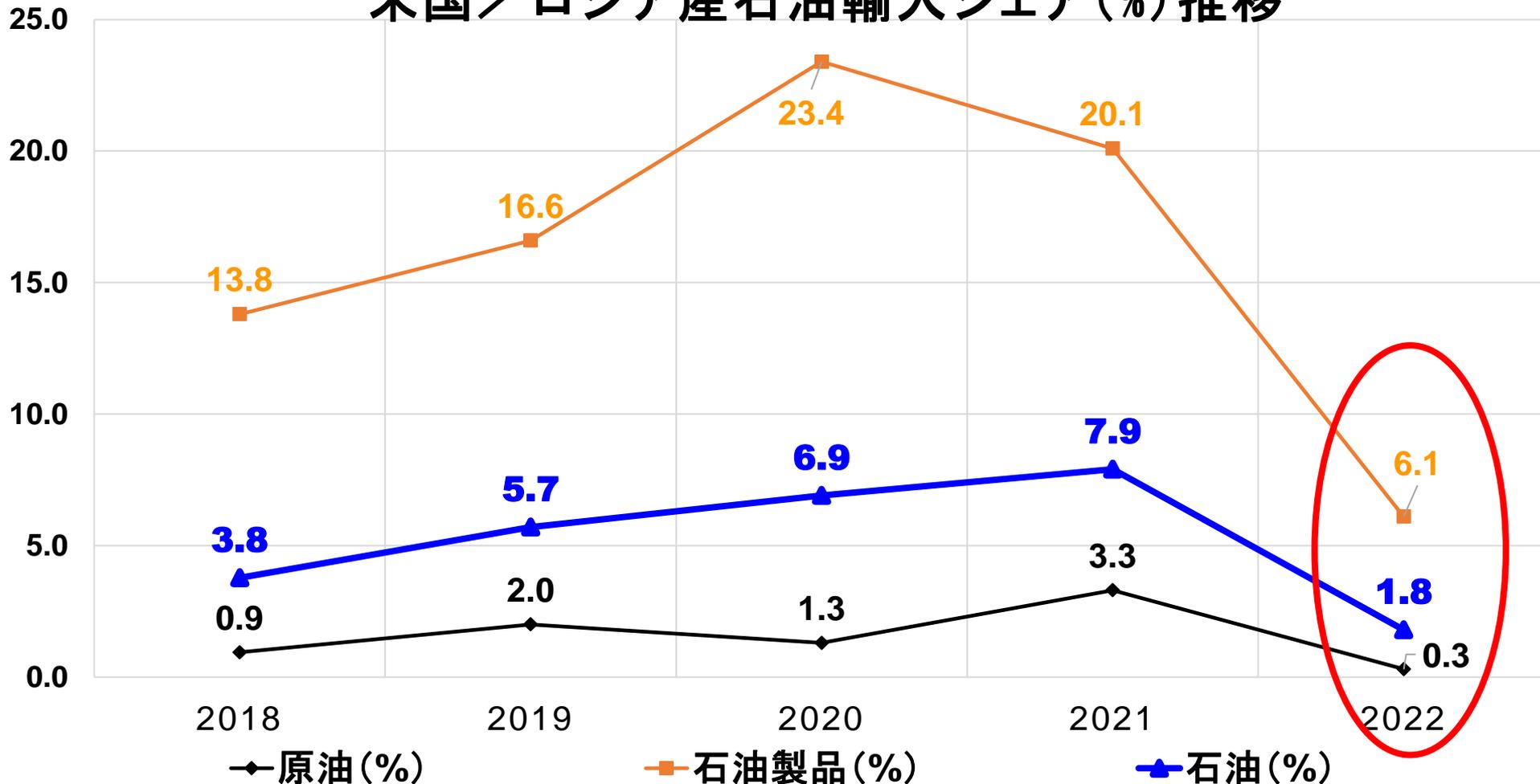
2022年	原油	石油製品	石油 (原油＋石油製品)
米輸入総量(mbd)	6.28	2.04	8.32
うち、露(mbd)	0.02	0.13	0.15
露シェア(%)	0.3%	6.2%	1.8%



米国／ロシア産石油輸入シェア推移

- 米国のロシア産石油（原油＋石油製品）：2019年以降増加
- 米国のロシア産石油：2022年5月以降ゼロ（←対露経済制裁措置）

米国／ロシア産石油輸入シェア(%)推移

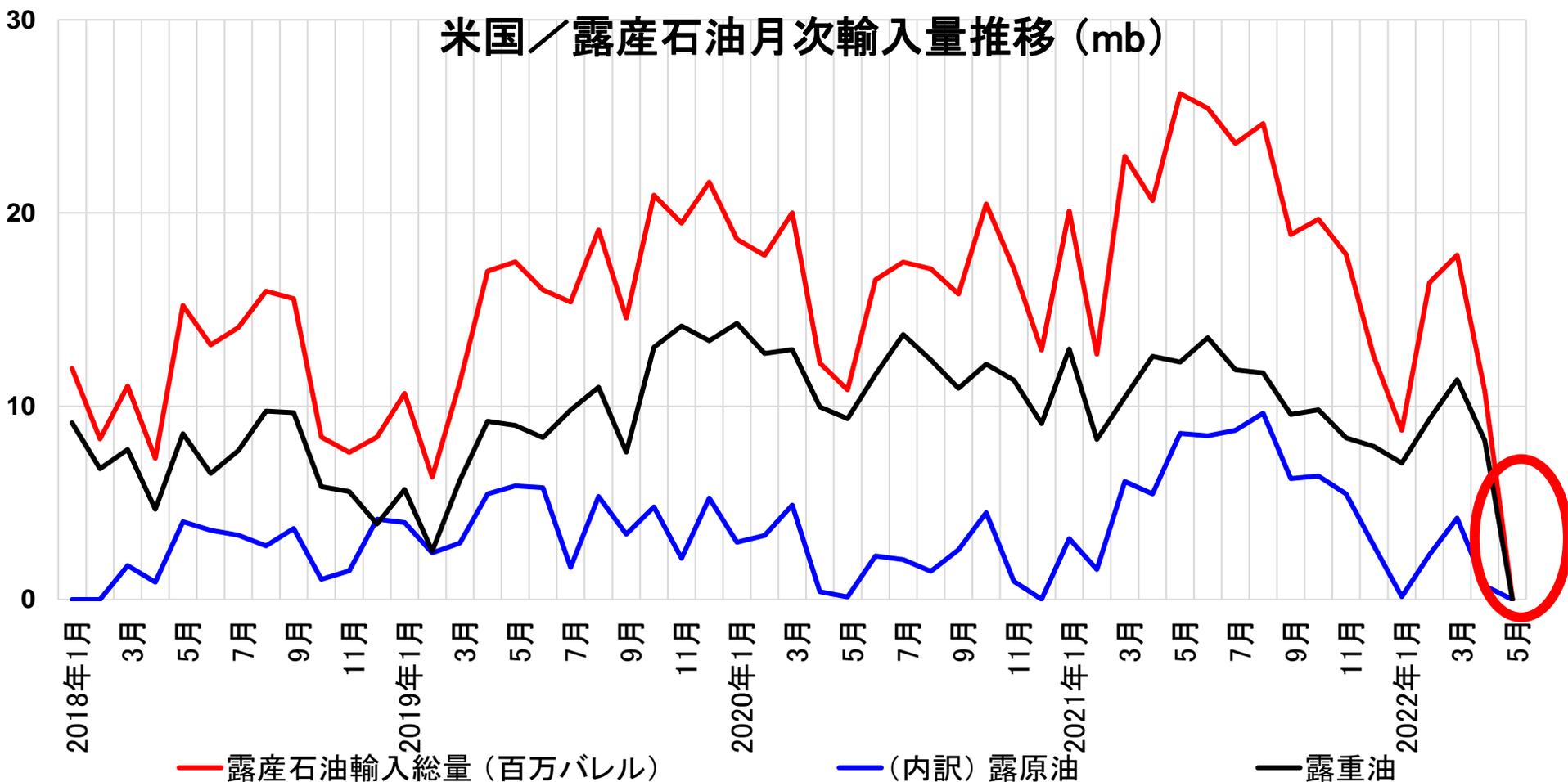


米国／ロシア産石油輸入内訳推移 40

□ 米の露産石油（原油＋石油製品）輸入増加→22年5月以降零

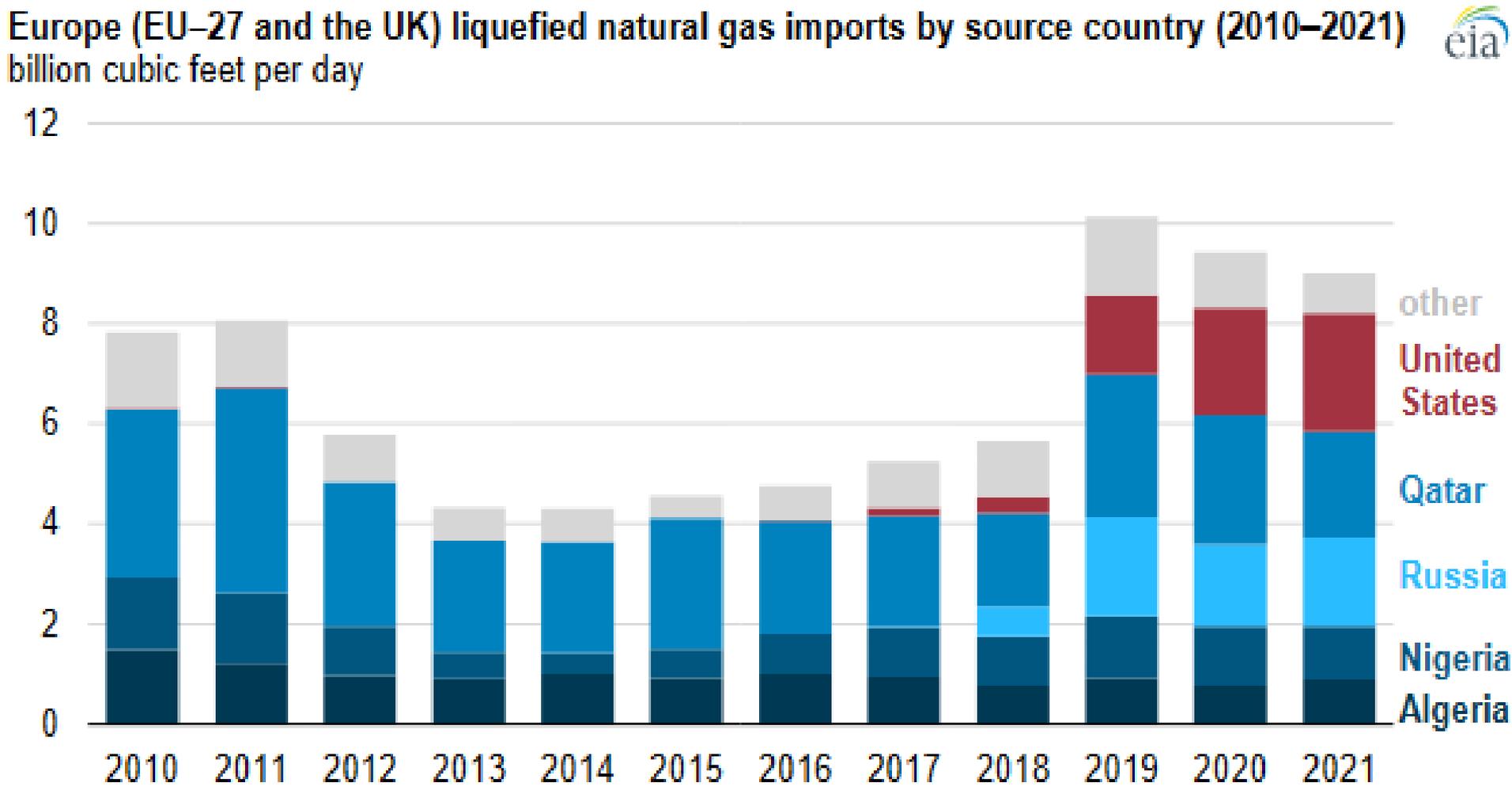
米：2019年以降ベネズエラ産重質油の代替品として急増

露：IMO規制に伴う、重質油の新規販売先として対米輸出増加



EU諸国／LNG輸入先推移

- EU2022年LNG輸入先：①米国 ②カタール ③露
- 2023年：ロシア産LNG輸入量は激減予測

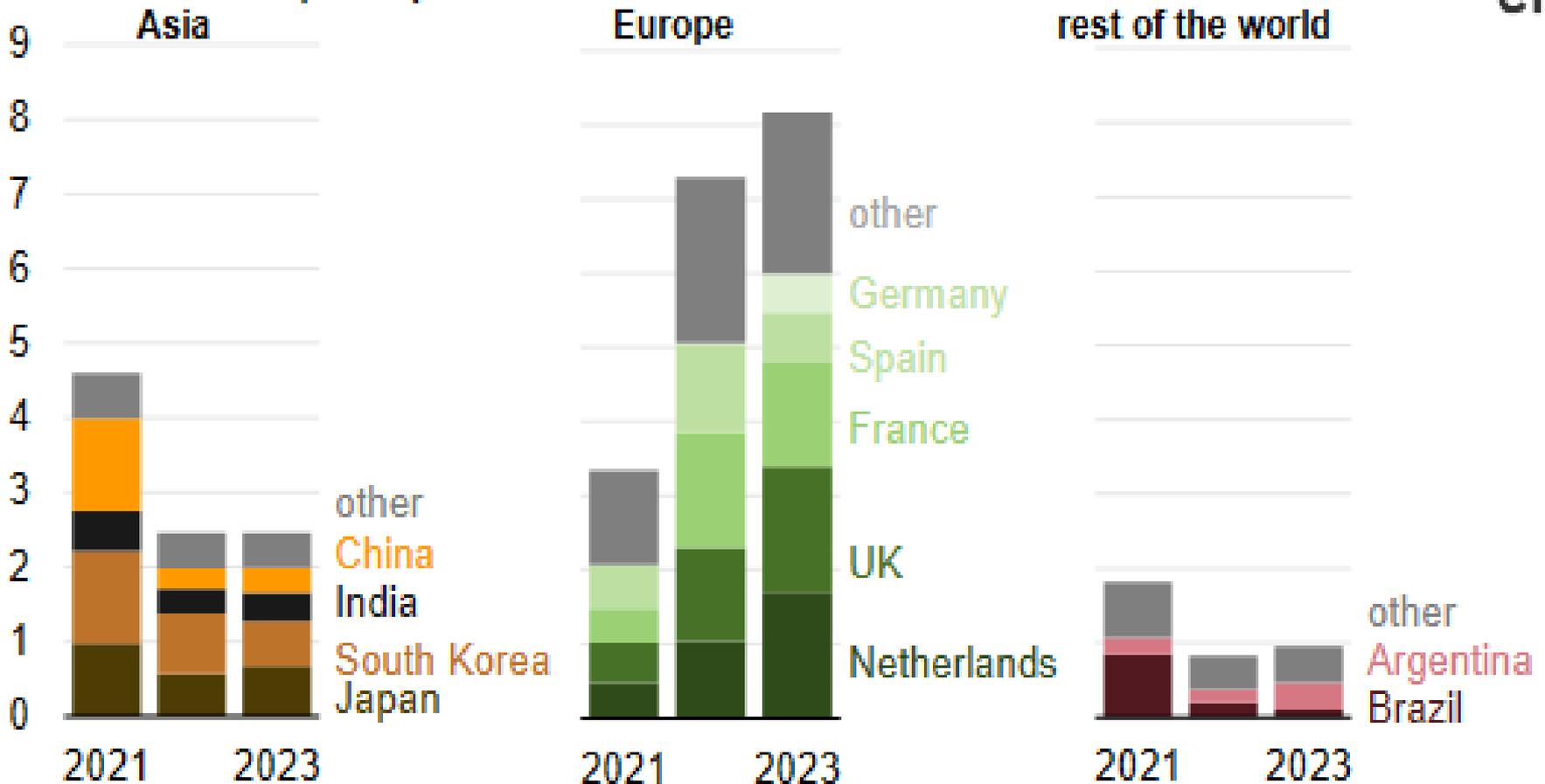


米／地域別LNG輸出量推移

- 米国産LNG地域別輸出量推移(21年1月～23年6月／bcfd)
- EU諸国LNG輸入量(22年)：①米 ②カタール ③露

U.S. liquefied natural gas exports by destination country (Jan 2021–Jun 2023)

billion cubic feet per day

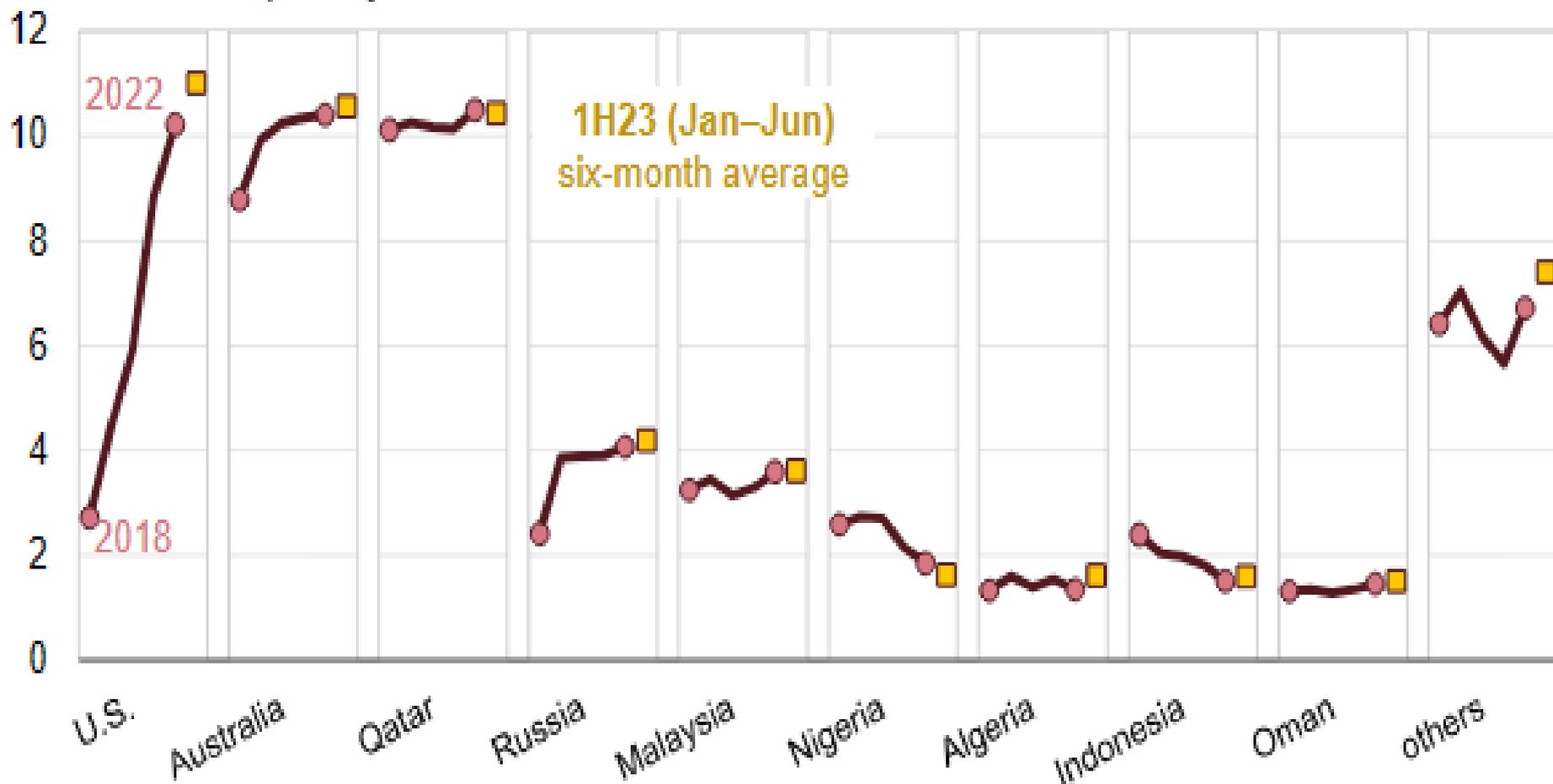


米／世界最大のLNG輸出国

□ 2023年上半期：米国は世界最大のLNG輸出国

Global liquefied natural gas exports by exporting country (Jan 2018–Jun 2023)

billion cubic feet per day



本日の報告会結論

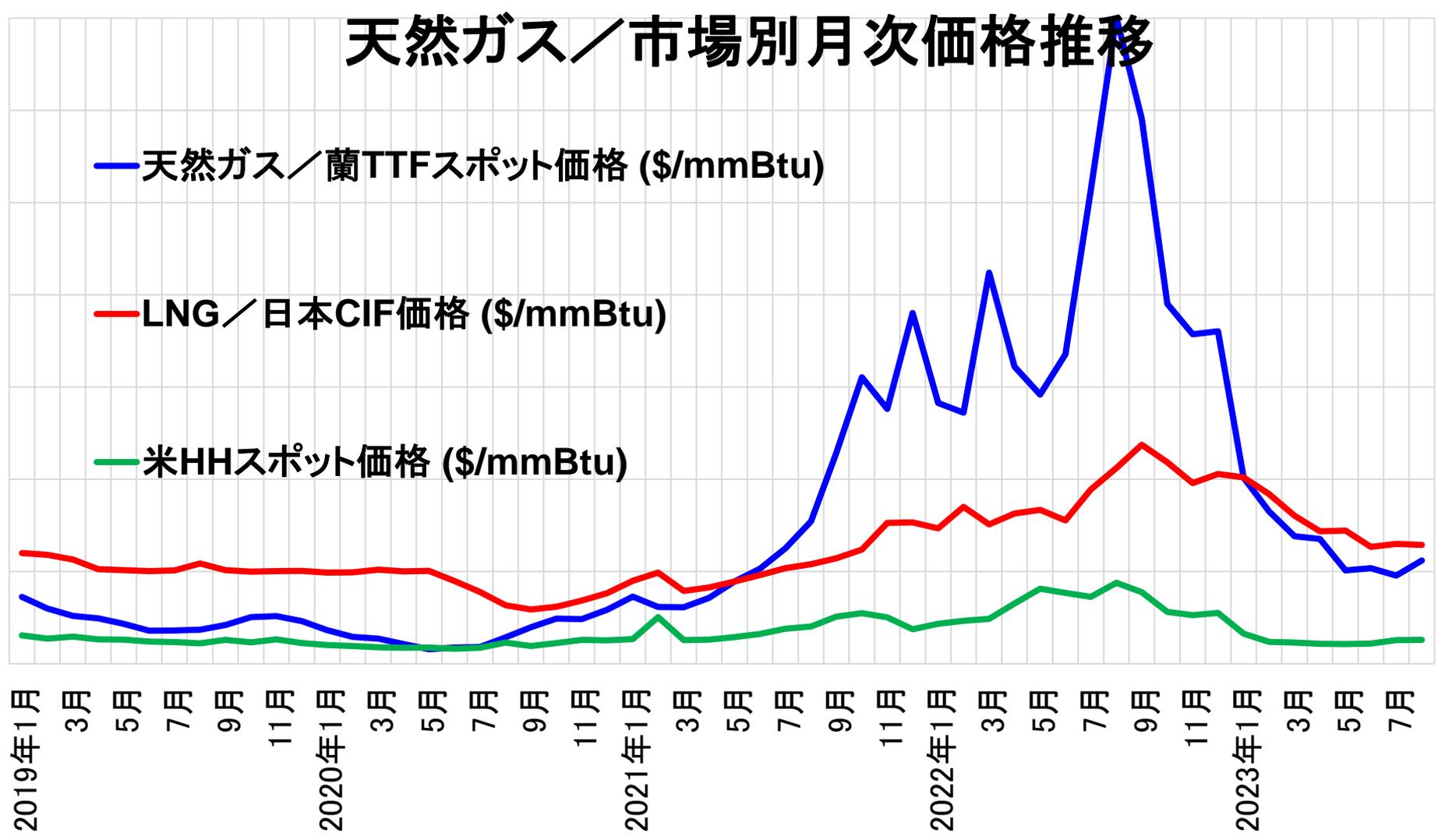
- ◆ウクライナ戦争の結果：**信頼に足る資源供給源地位喪失**
 - ➡ ロシアの弱体化が進む → 対中資源属国化促進
- ◆ウクライナ戦争の影響 ➡ **ロシアは「戦争経済」に突入**
 - ➡ 2024年国庫予算原案：歳出の4割が国防・治安費
- ◆**欧米メジャーの撤退 → 露原油・ガス生産量減少へ**
 - ➡ 23年3月から原油生産量発表停止
 - 露ガスプロム：天然ガス生産量発表停止
- ◆**世界の石油・ガスの流れが変わる**
 - ➡ 露産PLガスは欧州市場喪失
 - ➡ 露ガスプロムの経営悪化（2023年上半期赤字）
- ◆**「プーチン後継はプーチン」**
 - ➡ **ロシアは大きな北朝鮮になる**

欧米ガス価格・日本LNG価格推移⁴⁵

□ 蘭TTFスポット価格／米HHスポット価格／日本LNG輸入価格(CIF)

(出所: 世銀 <https://www.worldbank.org/en/research/commodity-markets>)

天然ガス／市場別月次価格推移

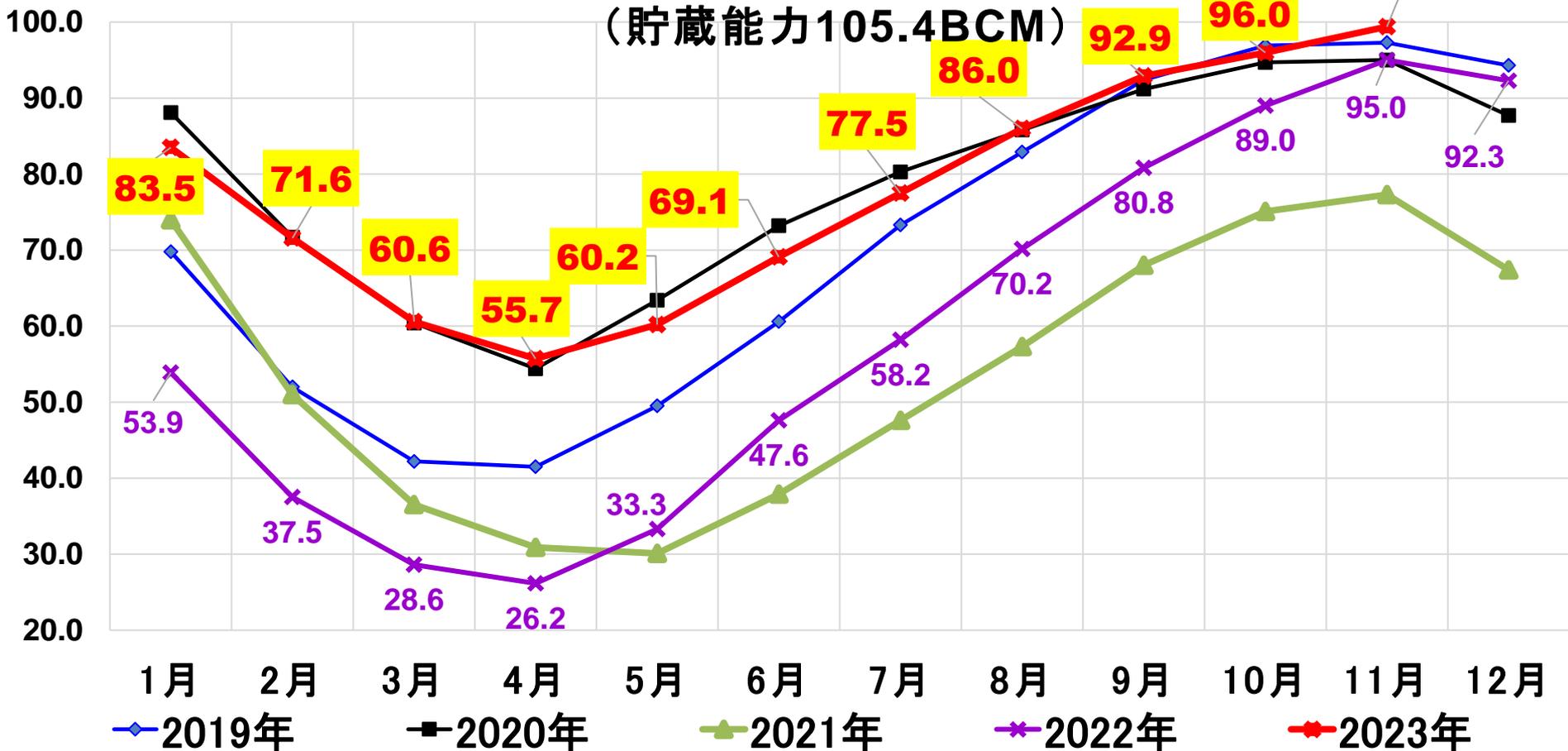


EU天然ガス地下貯蔵率推移

- EU天然ガス地下貯蔵能力：105.4bcm（出所：<https://agsi.gie.eu/>）
- 過去5年間の貯蔵率推移 → 2021年欧州ガス価格高騰の一因
- 23年11月7日現在：**99.6%**

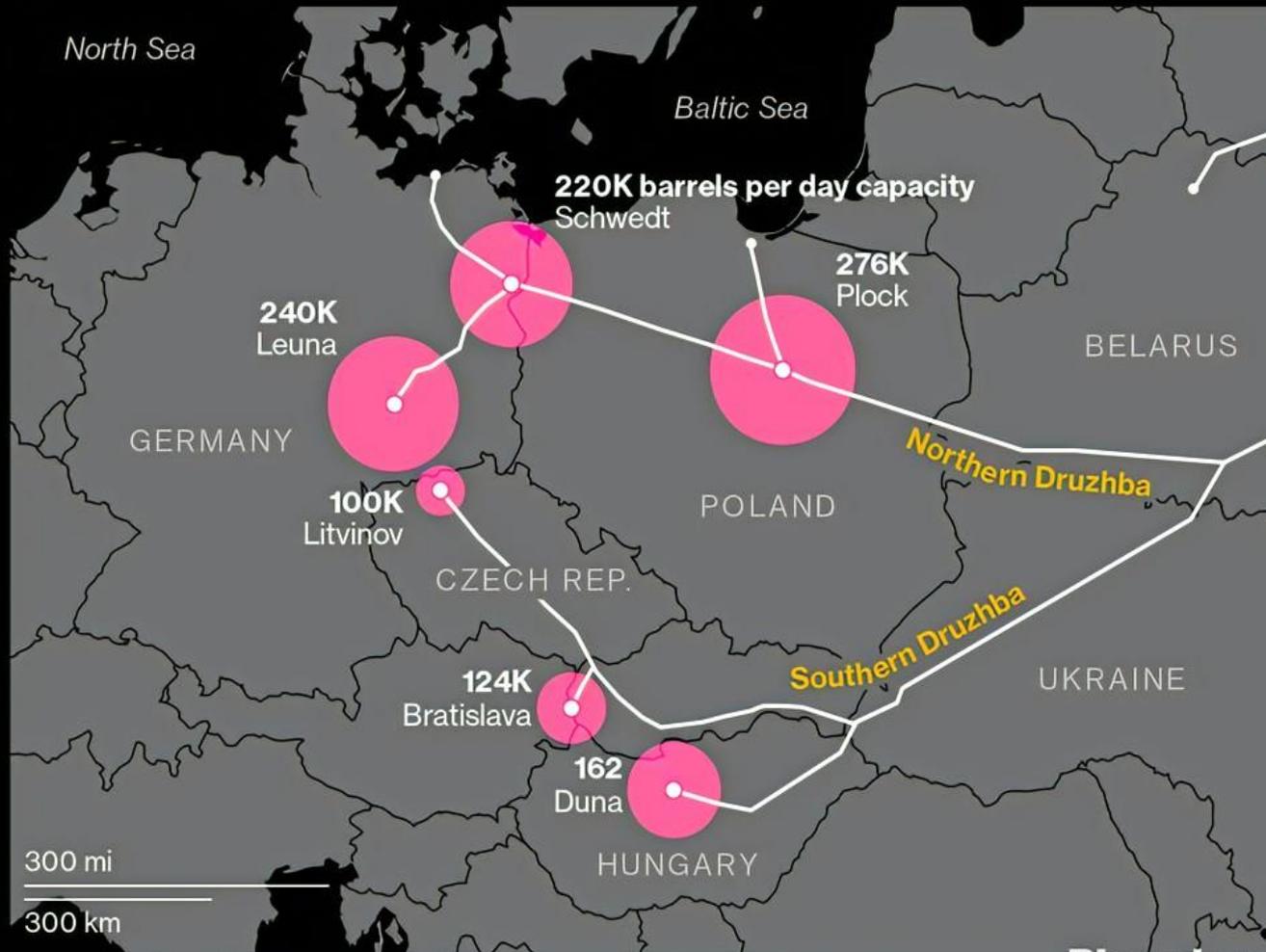
EU天然ガス／月初地下貯蔵率(%)推移

(貯蔵能力105.4BCM)



Druzhba's Dependents

Six European refineries depend on crude delivered through the Druzhba system for all, or part of, their feedstock



Sources: Bloomberg; AW Consulting

Bloomberg

□ ドルジュバP/L
旧東欧向け原油
P/L網

□ 北ドルジュバ:
2か国向け
(ポーランド・
旧東独)

□ 南ドルジュバ:
3か国向け
(ハンガリー・
スロバキア・
チェコ)

Russian oil flows to Europe

Some 2.3 million barrels of Russian crude oil – worth about \$75 billion a year – flows west each day through a network of pipelines and ports.

Any disruption would be detrimental to both Moscow and Europe

— Russia-Europe crude oil pipelines ● Oil terminals



Sources: Bloomberg, S&P Global Platts

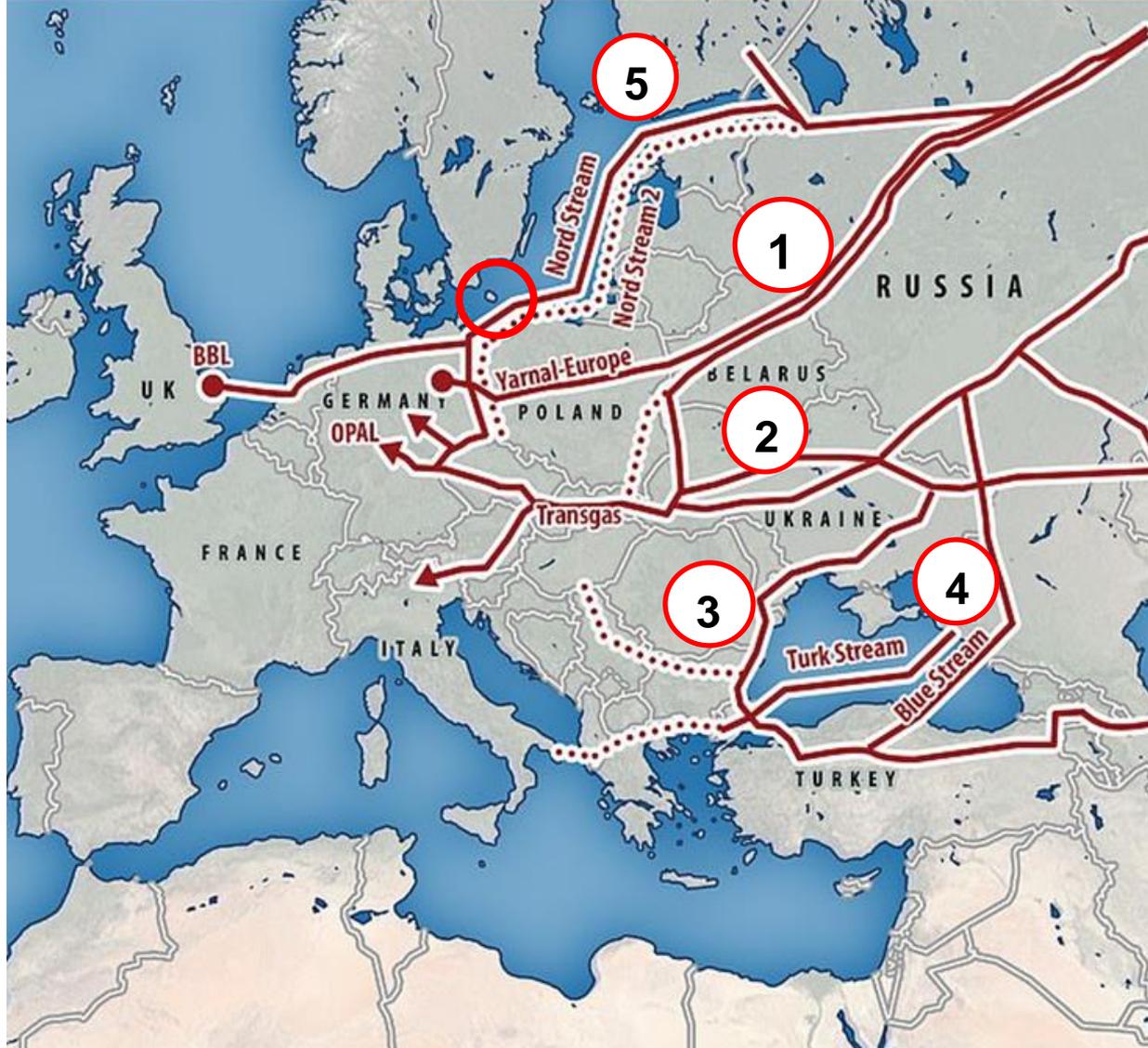
© GRAPHIC NEWS

□ 露トランスネフチの原油P/Lによる原油輸油量推移:

(出所: 露トランスネフチ)

露原油 P/L 輸油量 (mbd)	2018	2019	2020	2021
南ドルジュバP/L (ハンガリー等)	0.27	0.27	0.24	0.24
北ドルジュバP/L	0.71	0.59	0.66	0.48
欧州向けP/L	1.89	2.11	1.52	1.59
中国・露極東向けP/L	1.38	1.47	1.46	1.51
計	4.25	4.43	3.88	3.82

GAS PIPELINES FROM RUSSIA



陸上P/Lルート:

- ①ベラルーシ～ポーランド～ドイツ(旧東独) (33bcm)
- ②ウクライナ～チェコ・スロバキア～独(旧西独) (116)
- ③**バルカンP/L:**
ウクライナ～ルーマニア～ブルガリア～トルコ(26)

海底P/Lルート:

- ④**黒海経由トルコ:**
ブルー・ストリーム (16)
トルコ・ストリーム (31.5)
- ⑤**バルト海経由ドイツ:**
ノルト・ストリーム① (55)
ノルト・ストリーム② (55)

(地図出所: 2021年10月29日付AP誌)

露から欧州向け天然ガスP/L地図⁵¹



□ P/Lルート:
(22年4月27日付け独FAZ)

白色 : EU諸国

● 欧州ガス

地下貯蔵率:

EU地下貯蔵率

EU 99.6%

独 100.1%

仏 99.7%

伊 98.2%

(23年11月7日現在)

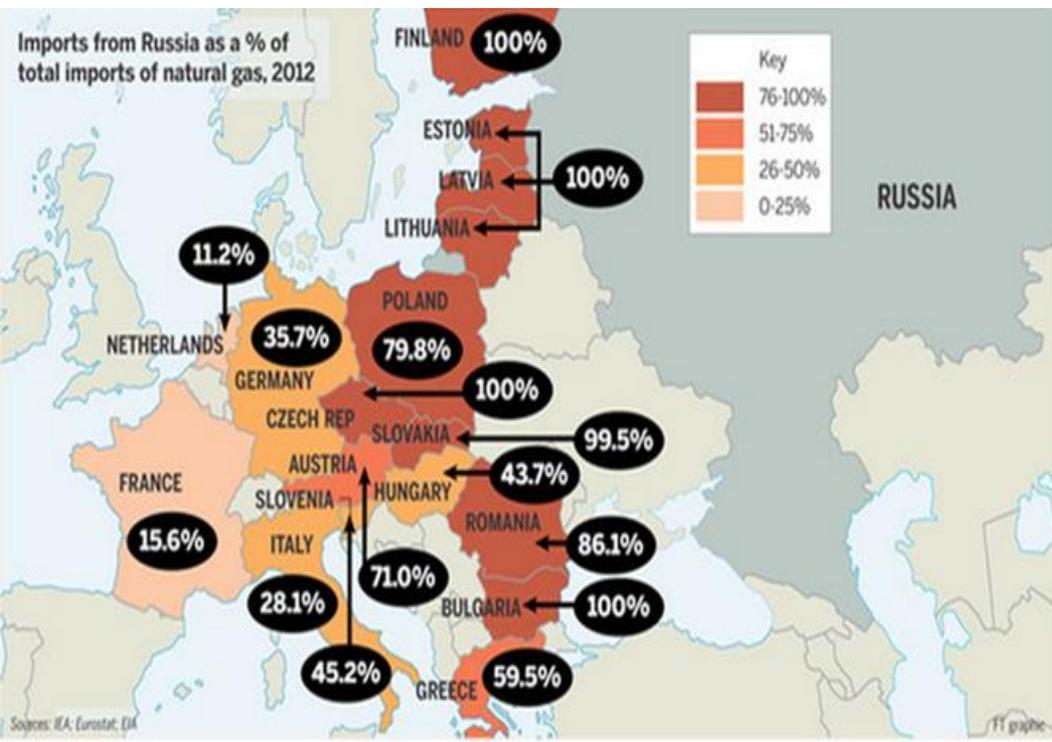
(出所: AGSI)

●2012年の露産ガス依存度

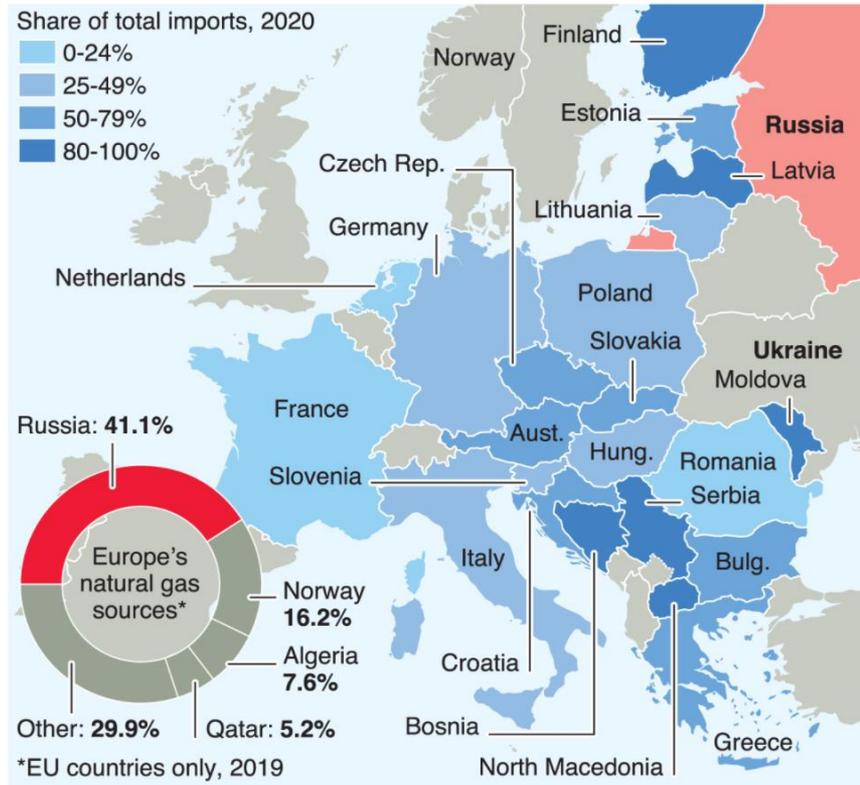
バルト3国100%依存
 旧東欧諸国の依存度高い
 旧西欧諸国の依存度低い

●2020年の露産ガス依存度

バルト3国依存度減少
 旧東欧諸国依存度減少
 旧西欧諸国依存度増大



GAS IMPORTS FROM RUSSIA TO EUROPE (selected countries)





- ❑ 北極圏とは北緯66度33分以上を指し、沿岸8か国が領土や領海を有する。
- ❑ 露プーチン大統領は2019年5月13日、「露連邦エネルギー安全保障ドクトリン」に署名、発効。同ドクトリンは北極圏の天然資源開発と北洋航路の開拓を鼓舞している

北洋航路の軍事的意義

露の外洋艦隊:

北洋艦隊 (セーベロモルスク)

太平洋艦隊 (ウラジオストク)

黒海艦隊 (セバストーポリ)

バルト艦隊 (バルチスク)

北洋航路が拓けると:

→露北洋艦隊と太平洋艦隊が2週間の航路で接続される。

→ペトロパブロフスク原子力潜水艦基地への兵站補給が容易になり、太平洋の制海権の軍事バランスが崩れる



北洋航路がスエズ運河航路の代替航路となる



□ LNG積替基地建設中 ← 米OFAC追加制裁リスト入り (23年9月14日)



- ヤマルLNGの主要向け先は欧州
- 西ルートは通年運航／夏場4か月間は東ルートも運航



【プーチン首相代行誕生】

●1999年8月9日：エリツィン大統領、ステパーシン首相を解任

- ・当時無名のプーチン連邦保安局長官兼安全保障会議書記を首相代行に任命。
- ・プーチンはエリツィン大統領“ファミリー”の利益擁護者の役目を担うべく、エリツィン“ファミリー”の操り人形として指名された。

【プーチン首相誕生】

●1999年8月16日：露下院承認により、プーチン首相誕生

- ・エリツィン大統領が当時無名のプーチンを自分の後継者として、初めて露内外に公表したことに世界は驚愕 → 西側反応 **“Putin, who?”**
- ・当時、露新聞にプーチン指名がどのように報道されていたのか？

【プーチン大統領誕生】

●1999年12月31日：エリツィン大統領、突然辞任

- ・プーチン首相を大統領代行指名 → 翌6月予定の大統領選挙を3月に繰上げ実施
- ・次期大統領選挙の最有力候補者は**ジュガノフ**共産党党首と**プリマコフ**元首相
- ・“ファミリー”が選挙にて勝利すべく奇策を弄した

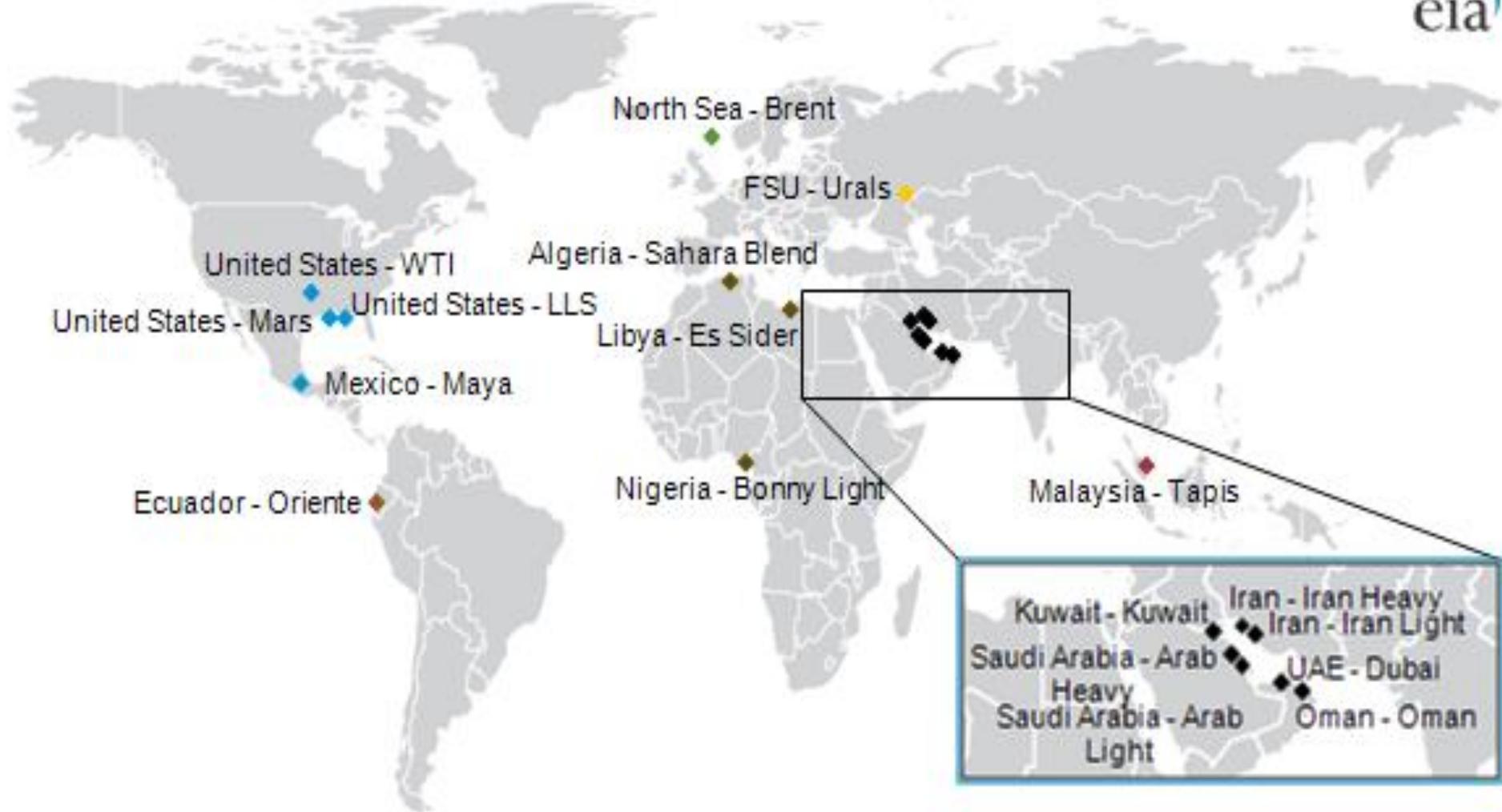
プーチン首相代行任命時の露マスコミ反応⁵⁸

- ① 『モスクワ・ニュース』（1999年8月10日付け）：
「“皇帝”（エリツィン大統領の側近は彼をそう呼んでいる）は、後継者を発表した。その人の名はブラジーミル・プーチン。……プーチンが大統領選挙で当選すると云う考えは、エリツィン大統領の政治的妄想の産物であろう。大統領選挙まであと1年あるが、テレビの視聴者も彼の顔を殆ど知らない。彼に大統領の椅子を望むことは、政治的には大きなリスクである」
- ② 『モスクワ・コムソモレッツ』（99年8月10日付け）：
「高齢のエリツィン大統領は未来の後継者を任命した。但し、プーチン自身がこの決定を歓迎しているのかどうかは疑問。……もしエリツィンのお気に召さなければ、それは辞任の前触れを意味することがクレムリンでは慣習となった」
- ③ 『コモソモルスカヤ・プラウダ』（99年8月10日付け）：
「プーチンはカリスマ性あるリーダーとは言い難い。大統領への途は茨の道」
- ④ 『文学新聞』（99年8月11日付け）：
「民主主義国家たる露の大統領が、連邦保安局長官を自分の後継者に指名した。社会にとり何たる侮辱。今回のエリツィン大統領の行為は決して評価出来ない」

世界の代表的油種

□ 代表的油種：米WTI・北海ブレント・ドバイ原油・露ウラル原油等

Select crude oil price points



主要油種別性状一覽表

- API : 重質油 $\leq 30 \sim 34$ (中質油) \leq 軽質油
- 硫黄分 : スウィート原油 (0.5%以下) / サワー原油 (1%以上)

Density and sulfur content of selected crude oils

sulfur content (percentage)

